

市内遺跡 13

—平成 30 年度 埋蔵文化財発掘調査報告書—

2020.2

茅野市教育委員会

市内遺跡 13

—平成 30 年度 埋蔵文化財発掘調査報告書—

2020.2

茅野市教育委員会

序 文

茅野市は長野県南東部に位置する風光明媚な高原都市です。東に八ヶ岳連峰、西に赤石山脈から続く山脚、北に霧ヶ峰山塊を擁し、霧ヶ峰の南麓からは遠く富士山を望むことができます。

当市には特別史跡尖石遺跡、史跡上之段遺跡や駒形遺跡をはじめとする多くの縄文時代の遺跡、更には国宝土偶「縄文のビーナス」、「仮面の女神」を保有するなど、「縄文の里」として全国にその名を知られています。それらの縄文遺跡にかくれがちであった弥生時代から江戸時代の遺跡も、市街地周辺における近年の発掘調査の蓄積によって、各時代の生活の様相が明らかになりつつあります。

当市では市内各所で行われる各種開発事業と遺跡の保護・調整を図るために、国庫補助事業による試掘調査ならびに本調査等を進めてきました。その中で平成30年度に実施した26件の調査成果が本報告書にまとめられています。

報告する発掘調査は、いずれも遺跡の一部を対象に行われた小規模なものです。このような調査を地道に繰り返し行うことで、遺跡の広がりやその性格が解き明かされていくものと期待されます。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力を賜りました地権者ならびに事業関係者の皆さま、調査に従事された作業員の皆さまに心からお礼を申し上げます。

令和2年2月

茅野市教育委員会
教育長 山田利幸

例 言

- 1 本書は長野県茅野市が平成31年度に国宝重要文化財等保存整備費補助金を受け作成した、平成30年度の各種開発事業に伴う市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 本書に掲載した遺跡は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までに調査した遺跡である。
- 3 整理作業ならびに報告書作成は、平成31年4月2日から令和1年12月27日に実施した。
- 4 各遺跡の所在地は本文中に記した。
- 5 本調査に係わる出土品、諸記録は茅野市尖石縄文考古館で収蔵・保管している。
- 6 発掘調査から報告書作成までに、長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課の諸氏からご指導、ご助言を頂いた。記して感謝する次第である。

凡 例

- 1 本書における挿図の縮尺は、挿図中に記している。
- 2 本書の掲載は試掘調査と本調査及び工事立会とも遺跡番号順とした。造成工事で行った後に行った工事立会は、関連があるため試掘調査の記述の後に掲載している。

目 次

第1章 市内遺跡発掘調査等事業の概要	1
第1節 茅野市における埋蔵文化財保護の概要	1
第2節 平成30年度事業の概要	1
第3節 調査の体制	1
第2章 試掘調査	3
第3章 本調査	22
抄録	

第1章 市内遺跡発掘調査等事業の概要

第1節 茅野市における埋蔵文化財保護の概要

平成31年3月現在、茅野市における周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、遺跡とする）は348箇所である。遺跡内およびその隣接地で開発行為が計画された場合、事業者と市教育委員会との間で埋蔵文化財保護に関わる取り扱いを協議し、試掘調査（確認調査）の実施を基本に埋蔵文化財（遺構・遺物）の有無を確認することになっている。埋蔵文化財が確認された場合、工事の計画変更による遺跡の現状保存を事業者に求めているが、やむを得ず失われる場合には、事業者の協力を得て本調査による記録保存を実施している。

近年の当市における発掘調査等は、ほ場整備・土地区画整理・幹線道路新設事業などの公共性の高い大規模な開発に伴うものから、宅地造成・集合住宅建築・個人住宅建築工事などの、民間・個人が事業者となる小規模な開発に伴う発掘調査へと移行している。今後もこのような小規模開発に伴う調査は増加の一途を辿ることが予想される。平成30年度には、高部・安国寺歴史環境整備事業が計画され、試掘調査を実施し、本報告書にもその結果を報告している。試掘調査の結果、本発掘調査が必要となり、本年度実施したが、その成果については別に来年度報告予定である。

第2節 平成30年度事業の概要

平成30年度に受理した『土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書（93条第1項）』ならびに『土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知書（94条第1項）』は64件である。本報告では、試掘調査が5件、本調査が1件の他、工事立会についても掲載したが、予算の執行を伴わない慎重工事24件は割愛した。

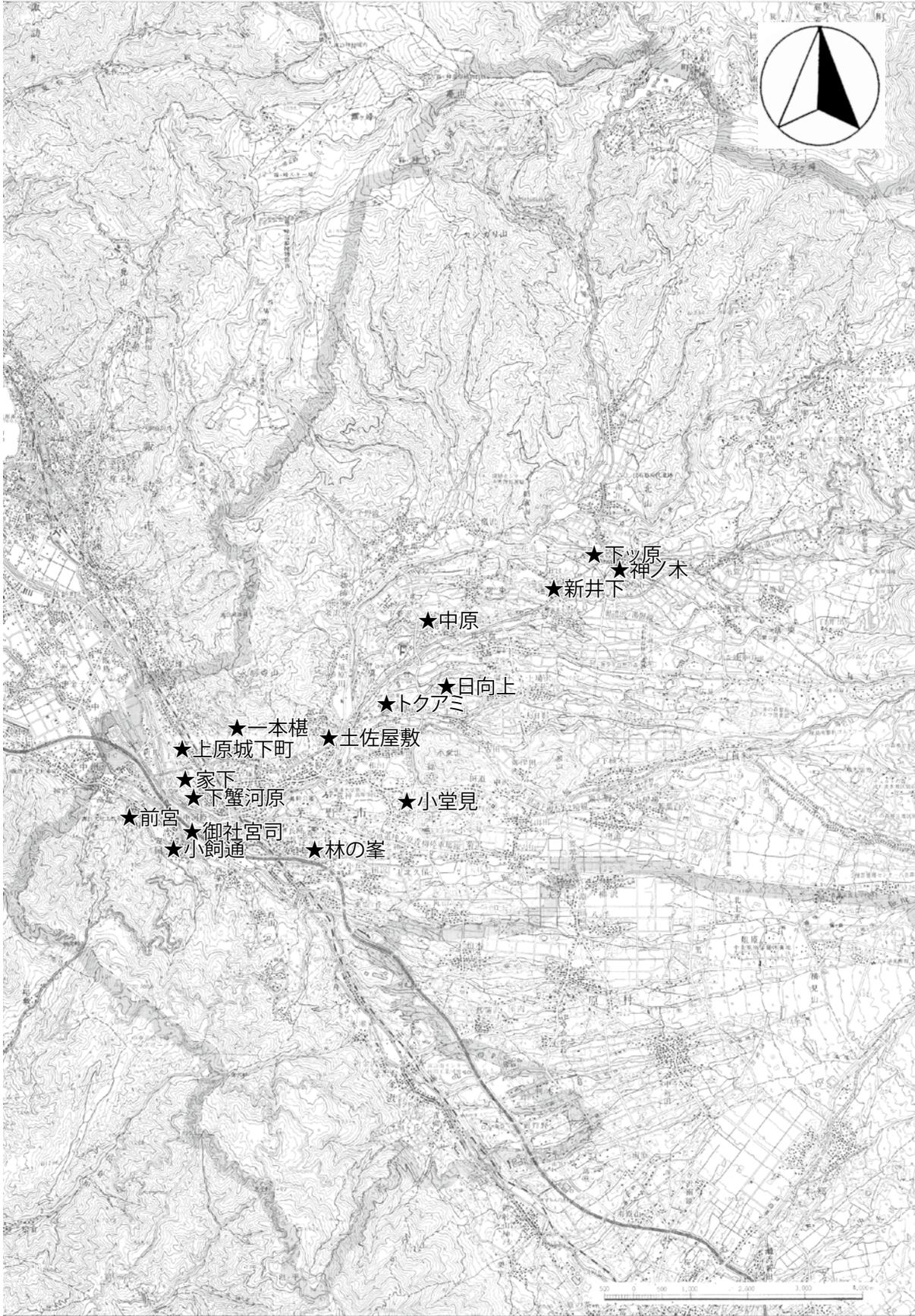
これらの開発に伴う調査のほか、尖石遺跡に西に隣接する土地を保存を目的とした発掘調査として実施している。これについては、改めて総括報告書にて報告予定である。

平成30年度国宝重要文化財等保存整備費事業補助金の「市内遺跡発掘調査等事業」の対象事業は、尖石遺跡周辺の発掘調査も含め、補助対象事業費が5,394,631円であった。

第3節 調査の体制

発掘調査は茅野市教育委員会事務局文化財課が実施した。平成30・31年度の組織は下記のとおりである。

- ① 調査主体者 教育長 山田利幸
- ② 事務局 生涯学習部長 平出信次
- ③ 文化財課・尖石縄文考古館
両角勝元（文化財課長）
守矢昌文（尖石縄文考古館長・尖石史跡整備担当）
小池岳史（考古館係長、平成31年度より文化財係長）
小林健治（文化財係長、平成31年3月まで）
山科 哲（平成31年度より考古館係長） 大月三千代 小林深志 鶴飼幸雄 堀川洸太郎
- ④ 調査担当 小林深志 鶴飼幸雄 堀川洸太郎（平成31年度より）
- ⑤ 発掘調査・整理作業参加者
補助員 酒井みさを 大勝弘子 武居八千代 立岩貴江子
作業員 赤羽千雲 北澤俊弘 柳沢省一 山田善興



第1図 調査遺跡位置図 (1/100,000) (工事立会を含む)

第2章 試掘調査

1 新井下遺跡

遺跡番号 59-18

所在地 茅野市湖東5657番1、5659番4

調査原因 宅地造成

調査期間 平成30年4月2日

調査面積 123㎡

遺構 なし

遺物 なし

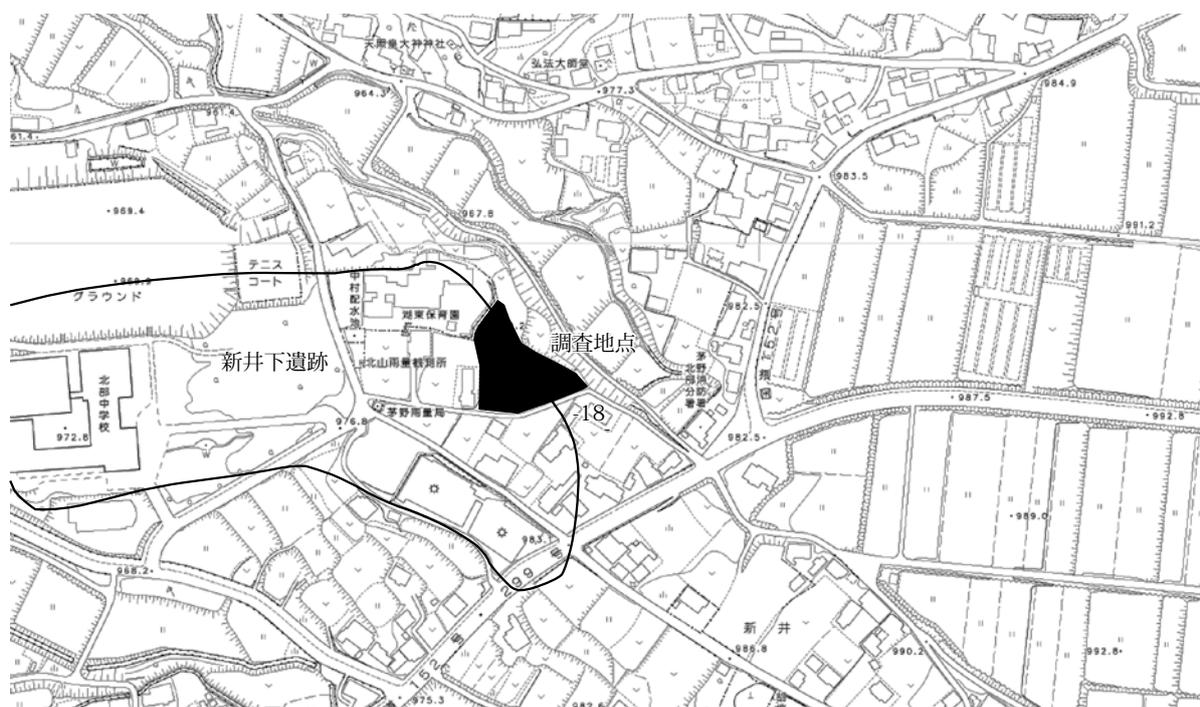
1 遺跡の概要

新井下遺跡は茅野駅から北東に約7km、八ヶ岳西麓の湖東地区新井に所在する。遺跡の北約500mの台地上には、国宝土偶「仮面の女神」が出土した中中原遺跡があり、共に湖東地区を代表する遺跡として知られている。

新井下遺跡は古くから知られ、大正13年発行『諏訪史』にも記載されている。昭和33年の北部中学校建設の際には、縄文土器石器の類が多数出土している。平成5年には湖東保育園の建設に伴い、4,000㎡以上の発掘調査が実施され、住居址40（縄文前期中期、平安）、円形柱穴列3、方形柱穴列1、土坑141の遺構が検出され、多数の遺物が出土した。平成7年には北部中学校の改築工事に伴い841㎡の発掘調査が実施され、住居址15（縄文中期後期、平安）、土坑1、ピット多数が検出されている。縄文集落は環状を形成するとみられる規模の大きい遺跡である。このような大規模調査のほか、道路改良工事や用水路取り換え工事などの小規模なものまで、数次にわたる調査が行われてきた。

2 調査の概要

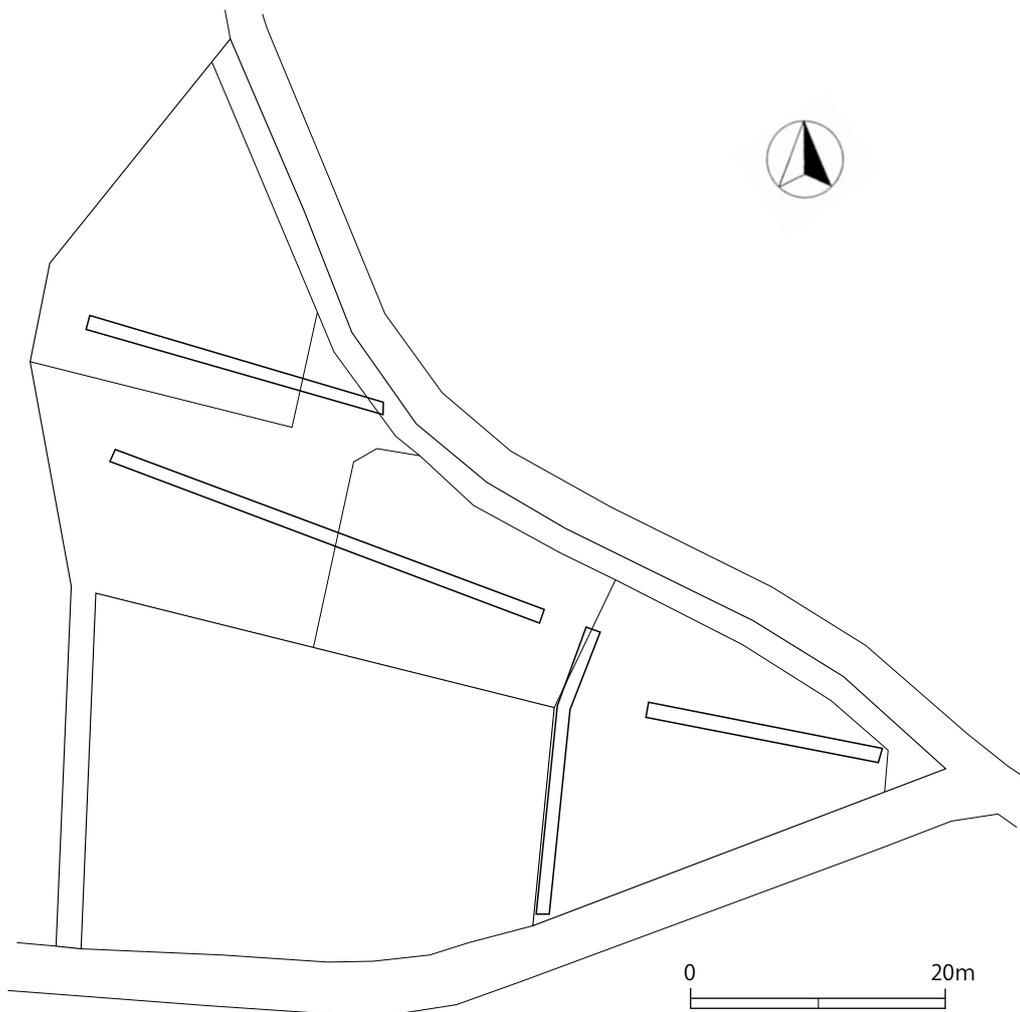
この新井下遺跡の北東端で、宅地造成が計画された。隣接する対象地の北西には湖東保育園があり、この時の



第2図 新井下遺跡調査地点図 (1/5,000)

調査で多くの遺構が検出されているため、試掘調査を行いその結果をもって改めて協議することとした。

調査は、重機により4本のトレンチをあけ遺構の有無を確認した。その結果、すべてのトレンチで遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。湖東保育園建設時の調査でも、遺構は西側に多く検出され、東側に行くに従って遺構の分布が薄くなっていく様子がみられたことから、この範囲内で遺構の分布は終わるものと考えられた。



第3図 新井下遺跡調査位置図 (1/600)



図版1 遺跡近景 (東から)



図版2 作業風景 (南から)

2 前宮遺跡

遺跡番号 129-25

所在地 茅野市宮川2044、2041、2042番地

調査原因 擁壁工事および交流センター建設

調査期間 平成30年12月4日～6日

調査面積 108㎡

遺構 住居址1、土坑3、溝址2

遺物 土師器、須恵器、カワラケ、陶磁器

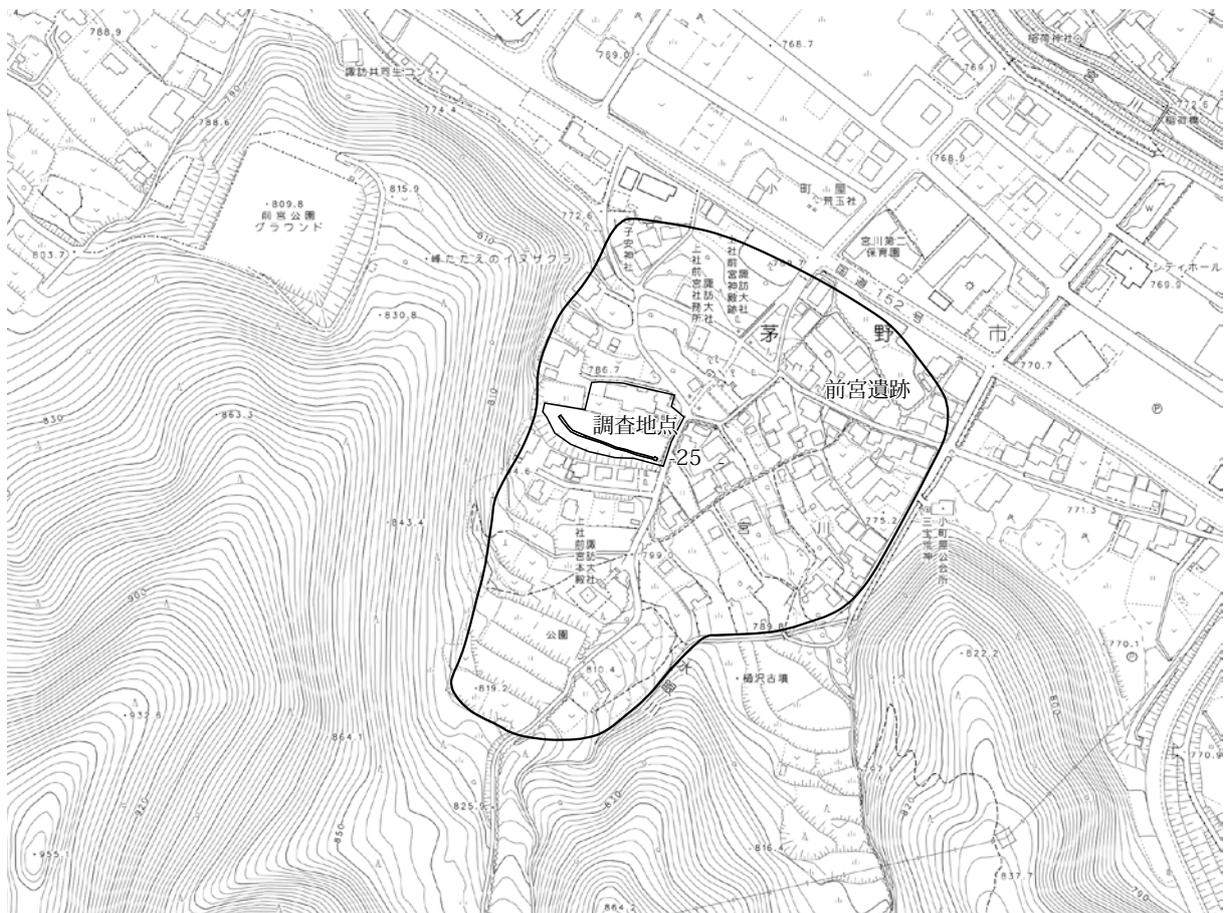
1 遺跡の概要

前宮遺跡は縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世の遺構遺物が遺る遺跡である。遺跡内には古墳群が構築されている。中世には諏訪大社大祝の居館があったところで、諏訪神社の重要な神事が行われ、その一部が諏訪大社上社前宮神殿跡として長野県史跡に指定されている。

2 調査の概要

今回通知された箇所は、前宮本殿に向かう参道の西側で、地元の歴史や観光情報などの発信および来訪者の休憩場所とする施設の建設。交流広場として整備するための土留め工事が行われる予定である。

上段の西側是水田として利用されていたところで、さらにその南側の上段の住宅地とは6m以上の段差がある。そこで土留め用の擁壁を設置後、交流広場として利用する計画である。下段の東側は東側の参道に面したと



第4図 前宮遺跡調査地点図 (1/5,000)

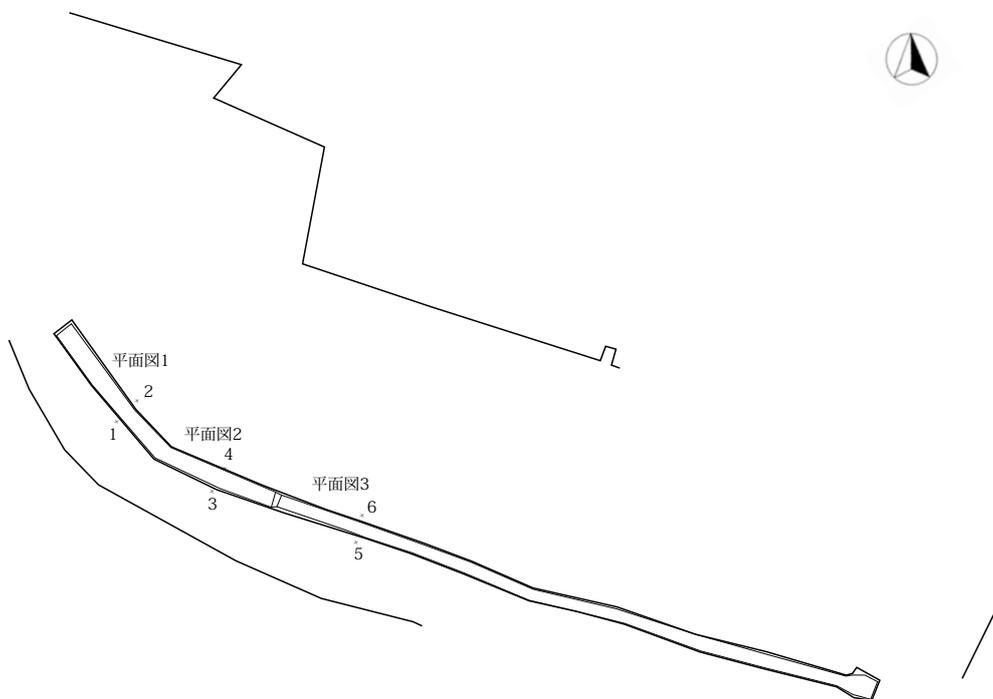
ころを駐車場とし、奥の西側に交流センターとしての建物とトイレを建設する計画である。

この扇状地の傾斜の中の平坦な面について、当初は古い段階での造成によりできたもので、遺構などは削平され残っていない可能性も考えられた。

調査は擁壁を設置する西側の箇所について、重機によりトレンチを入れ調査を行った。西側から東側へと掘削を進めていったが、最初に住居址になると考えられる掘り込みと遺物が出土し、続いて土坑や溝などが検出されていった。こうした調査の結果、住宅地との段差は、古い時代の造成などではなく、断層による段差の可能性を指摘されている。

交流センター建設予定地も同時に試掘調査する予定であったが、まだ詳細な設計が出来ていないため、後日試掘調査を行うとしていたが、上段で遺構が検出され、翌年度当初に発掘調査を行うこととなったので、これに合わせて試掘調査を行うこととなった。

検出した遺構は、平面プランの測量をした後に埋め戻しを行い、後日の発掘調査に備えた。また、出土した遺物は地点を記録し、取り上げを行っている。



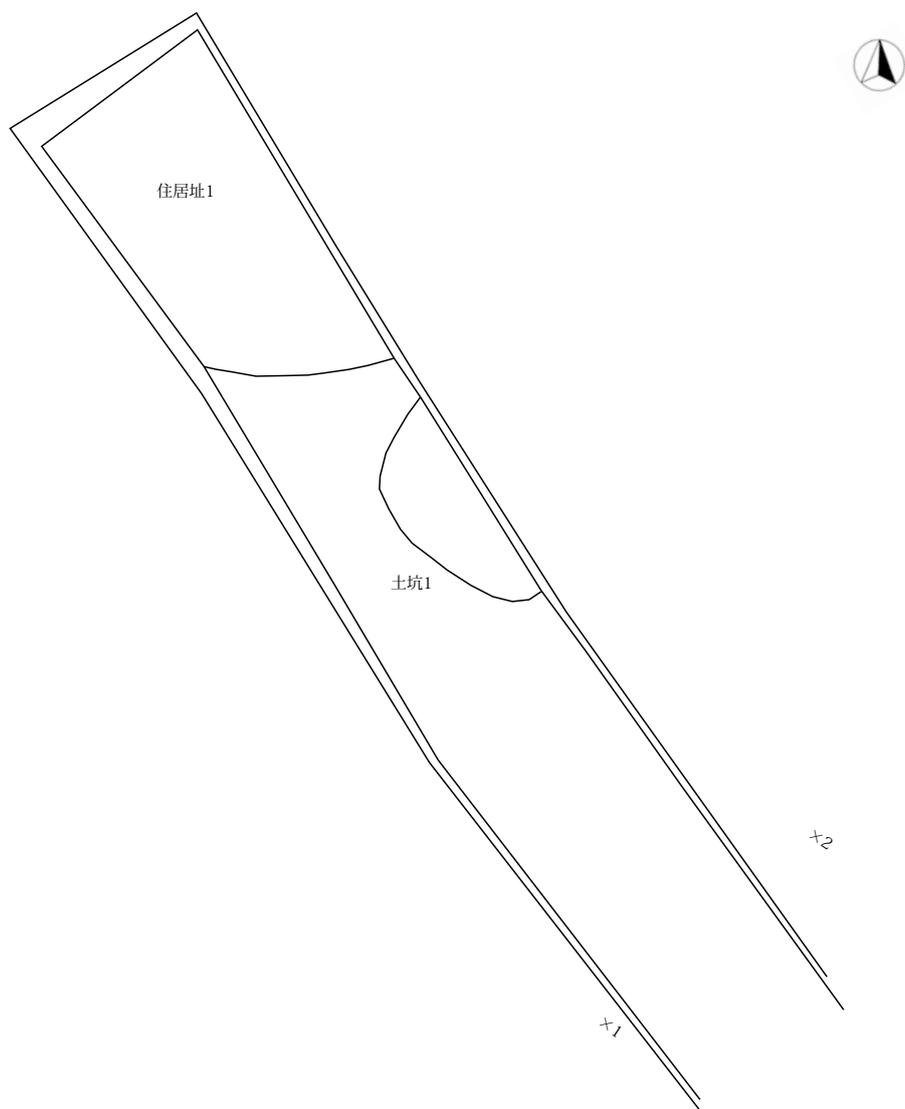
第5図 前宮遺跡調査位置図 (1/600)



図版3 調査風景1



図版4 調査風景2



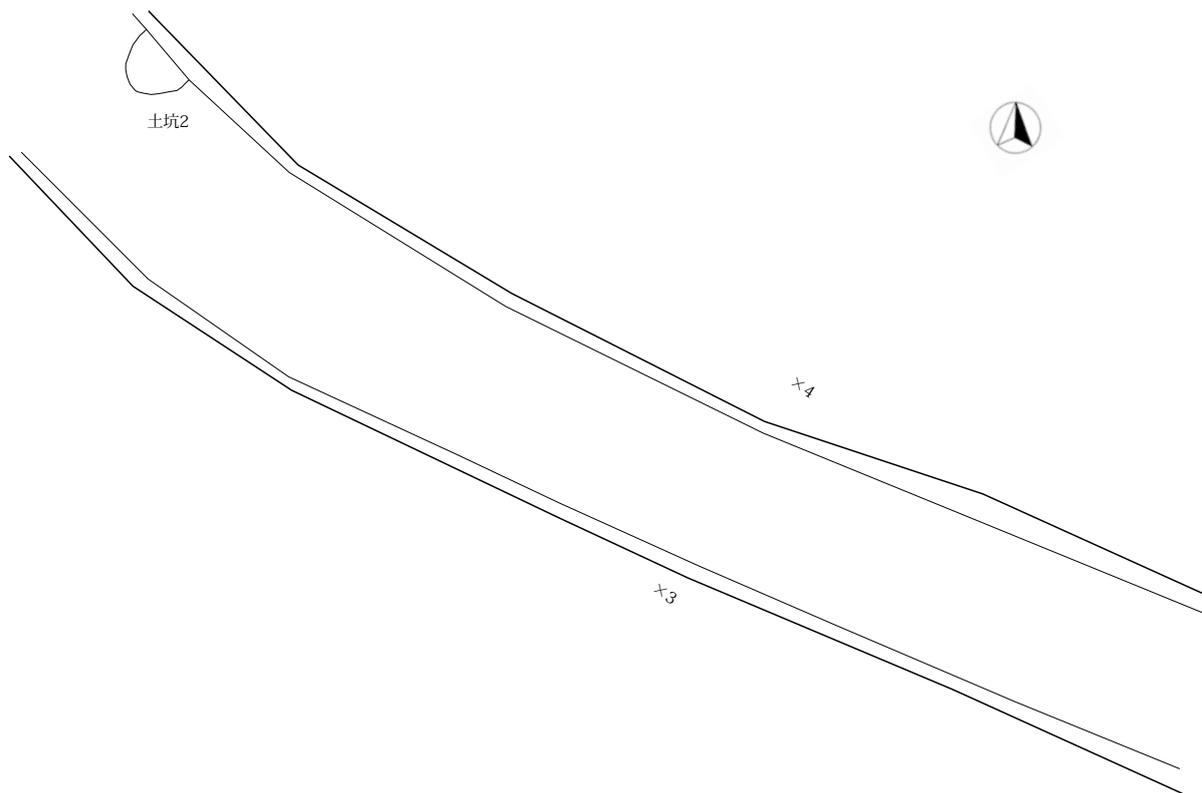
第6图 平面图1 (1/60)



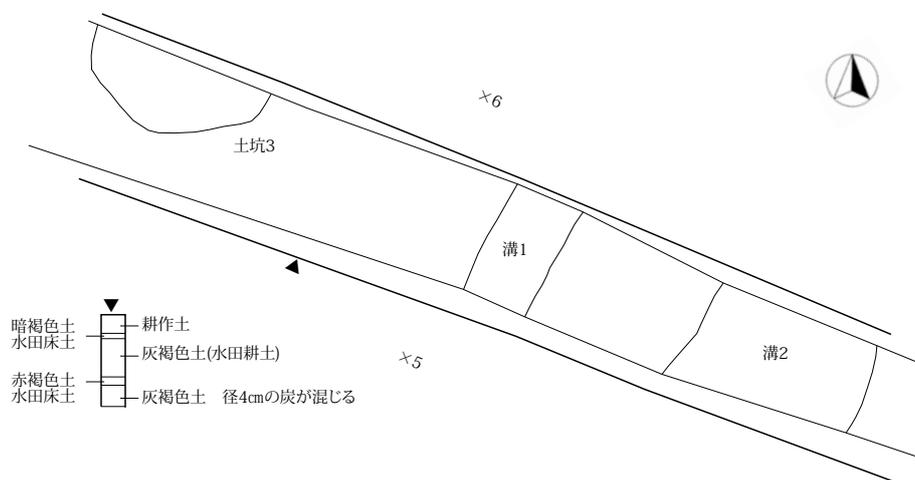
图版5 住居址1



图版6 土坑1



第7図 平面図2 (1/60)



第8図 平面図3 (1/60)



図版7 土坑3



図版8 溝1(奥)・2(手前)

3 小堂見遺跡

遺跡番号 160-13

所在地 茅野市玉川3075-2、3076-口、3078、3079、3085

調査原因 宅地造成

調査期間 平成30年4月2日～3日

調査面積 134㎡

遺構 なし

遺物 なし

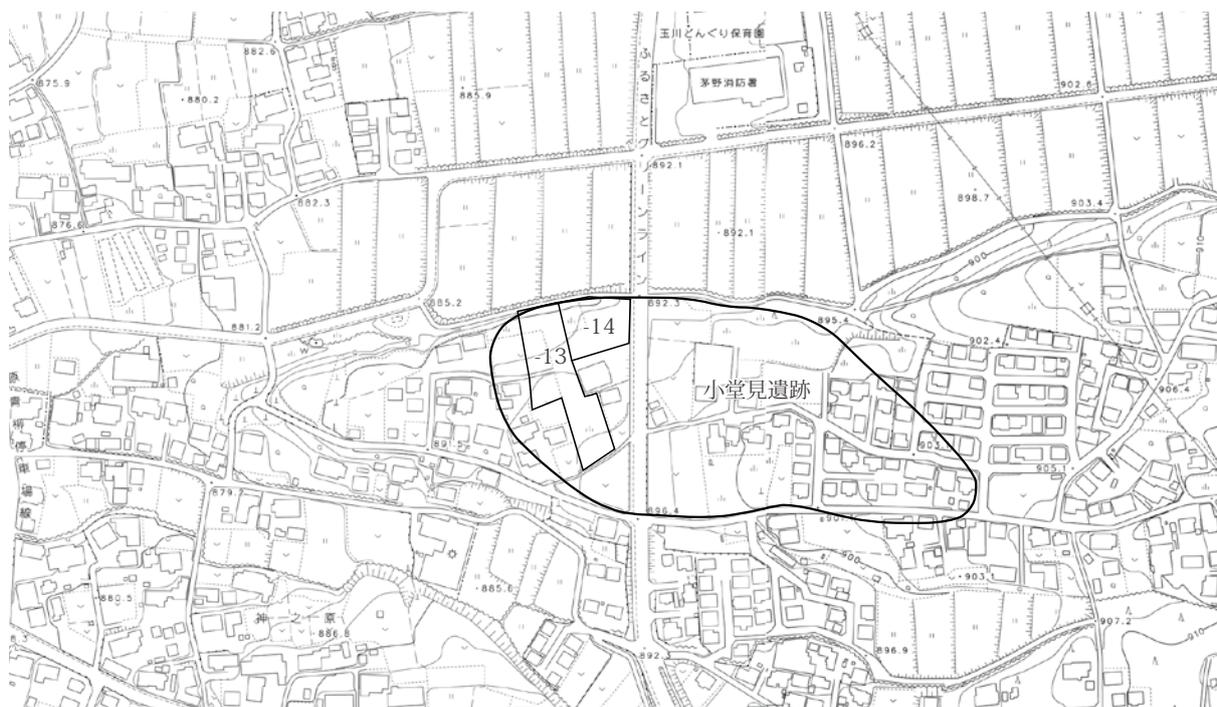
1 遺跡の概要

小堂見遺跡は八ヶ岳山麓の東西に延びる痩せ尾根状の台地に立地する。平成3年に遺跡範囲東側の台地平坦面で宅地造成に伴う試掘調査が行われ、平安時代の竪穴住居址3軒と土坑（落し穴）1基が確認された。その後、平成7年に行われた農道建設に伴う発掘調査では、縄文時代中期初頭の竪穴住居址1軒と土坑17基が、台地の北側斜面から検出された。その後、個人住宅建設等による小規模な調査が数カ所で実施されており、縄文時代の遺構・遺物が発見されている。また、平成19年に店舗及び医療施設建築工事に伴って発掘調査を実施し、縄文時代の住居址3軒と土坑が検出されている。

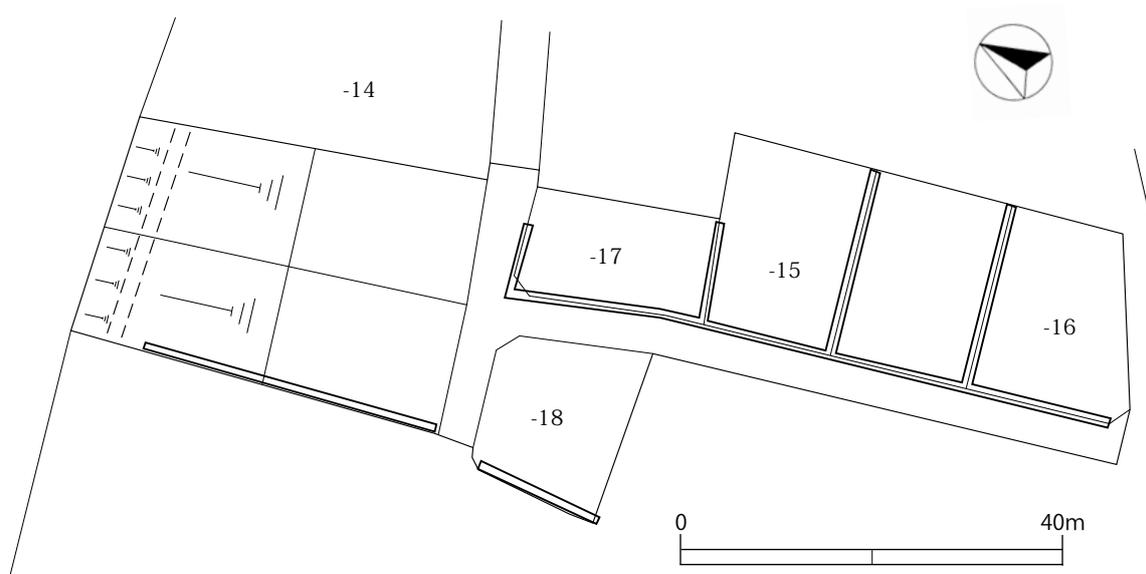
2 調査の概要

今回通知された箇所は、平成19年に医療施設建設に伴って発掘調査を実施した地点の西側に隣接している。総面積2,389㎡の土地に7区画の宅地を造成するものである。そこで、各区画の境に設置する擁壁部分について重機によるトレンチ調査を実施し、遺構の有無を確認した。

調査の結果、どのトレンチからも遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。しかし、各区画内に遺構の検出される可能性があることから、各個人住宅の建設時にも文化財保護法93条の提出を求め、基礎工事の際に工事立会を行うこととした。それぞれの立会結果についても、併せて記した。



第9図 小堂見遺跡調査地点図 (1/6,000)



第10図 小堂見遺跡調査位置図 (1/800)



図版9 調査風景 (北東から)



図版10 調査風景 (南から)

遺跡番号 160-14

所在地 茅野市玉川3080-1

調査原因 駐車場造成・ガレージ建設

調査期間 平成30年10月16日・11月26日

調査面積 180㎡

遺構 なし

遺物 なし

1 調査の概要

今回通知された箇所は、平成19年に医療施設建設に伴って発掘調査を実施した地点の北側に隣接している。総面積615㎡の土地を造成し、駐車場を設け、ガレージを建設するものである。擁壁部分およびガレージ基礎部分の掘削に際して工事立会を行ったが、北斜面に盛土を行い平坦にしてある範囲内で、遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。



図版11 北側（東から）擁壁部分掘削



図版12 基礎部分掘削（南から）

遺跡番号 160-15

所在地 茅野市玉川3085-1

調査原因 個人住宅建築工事

調査期間 平成30年10月15日

調査面積 70㎡

遺構 なし

遺物 なし

1 調査の概要

今回通知された箇所は、平成19年に医療施設建設に伴って発掘調査を実施した地点の西側に隣接している。総面積300㎡の土地に個人住宅を建設するものである。

平成30年4月の宅地造成に伴う試掘調査で今回の敷地の南北と西側の擁壁部分について試掘調査を行っているが、遺構の検出のなかった箇所である。しかし、隣接地で縄文時代の住居址を検出していることから、遺構の検出の可能性があることから、基礎工事の際に工事立会を行った。しかし、遺構の検出はなく、遺物の出土はなかった。



図版13 調査風景1（北から）



図版14 調査風景2（北から）

遺跡番号 160-16
所在地 茅野市玉川3085-内
調査原因 個人住宅建築工事
調査期間 平成30年10月31日
調査面積 37㎡
遺構 なし
遺物 なし

1 調査の概要

今回通知された箇所は、平成19年に医療施設建設に伴って発掘調査を実施した地点の西側に隣接している。総面積300㎡の土地に個人住宅を建設するものである。平成30年4月の宅地造成に際し、敷地の北側と西側の擁壁部分について試掘調査を行っているが、遺構の検出や遺物の出土はなかった。

今回の造成地の中では最も南側で、尾根の頂部にあたることから遺構の検出が期待された。しかし、基礎部分の掘削に際して工事立会を行ったが、遺構の検出はなく、遺物の出土はなかった。



図版15 調査風景（南から）



図版16 調査風景（北から）

遺跡番号 160-17
所在地 茅野市玉川3079-2
調査原因 個人住宅建築工事
調査期間 平成30年11月19日から20日
調査面積 32㎡
遺構 なし
遺物 なし

1 調査の概要

今回通知された箇所は、平成19年に医療施設建設に伴って発掘調査を実施した地点の西側に隣接している。総面積227㎡の土地に個人住宅を建設するものである。

外周の擁壁部分について試掘調査を行っているが、遺構の検出がなかった箇所である。しかし、隣接地で縄文時代の住居址を検出していることから、遺構の検出が期待された。今回の調査区は、事前に柱状改良が行われたが、その際には掘削面積が狭いことから工事立会を行わなかった。その後の基礎部分の掘削に際して工事立会を行ったが、遺構の検出はなく、遺物の出土はなかった。



図版17 調査風景1 (西から)



図版18 調査風景2 (北から)

遺跡番号 160-18

所在地 茅野市玉川3076-1、3075-2

調査原因 個人住宅建築工事

調査期間 平成31年1月10日

調査面積 26㎡

遺構 なし

遺物 なし

1 調査の概要

今回通知された箇所は、平成19年に医療施設建設に伴って発掘調査を実施した地点の西側に隣接している。総面積247㎡の土地に個人住宅を建設するものである。平成30年4月の宅地造成に際し、西側の擁壁部分について試掘調査を行っており、遺構の検出や遺物の出土は見なれなかったが、隣接地で縄文時代の住居址を検出していることから、基礎工事に際して工事立会を行った。

工事立会の結果、北側は盛土の範囲内であり、遺構の検出は望めなかった。南側については、土壌の残りがよく、遺構の検出が期待されたが、掘削がローム漸移層まで至らなかったため遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。



図版19 調査風景1 (北から)



図版20 調査風景2 (東から)

4 土佐屋敷遺跡

遺跡番号 218-2

所在地 茅野市本町東5306-1、5312-1、5313-1・6・8

調査原因 集合住宅建設工事

調査期間 平成30年7月23日～25日

調査面積 177㎡

遺構 なし

遺物 土器、黒曜石

1 遺跡の概要

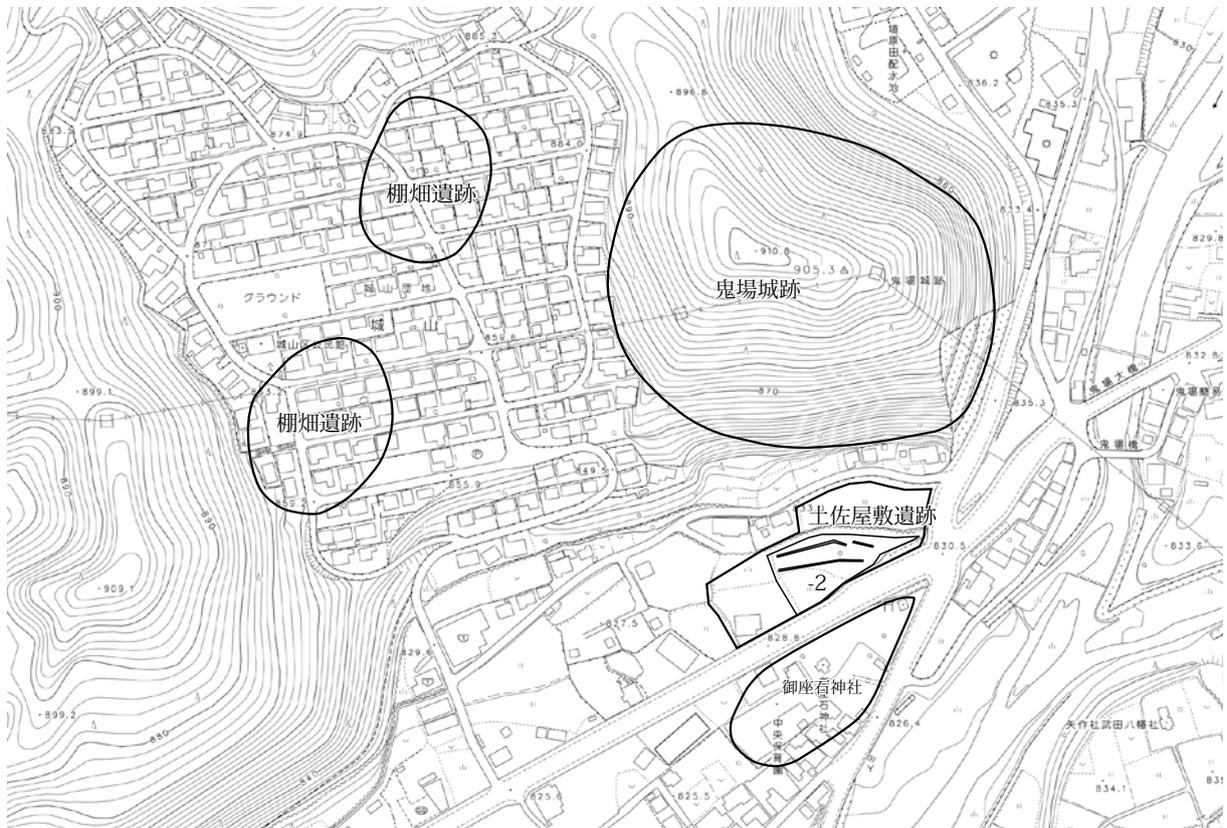
土佐屋敷遺跡は鬼場城跡（217）の南麓に位置し、国道152号を挟んで御座石神社（219）と対峙している。「土佐屋敷」の地名は、鬼場城城主の日常の館とみる説があり、「土佐」については「矢崎氏系図」にみられる「土佐」と考えられている。なお、地点図中の柵畑遺跡は、国宝土偶「縄文のビーナス」出土地とは別遺跡である。

土佐屋敷遺跡からは昭和17年頃に奈良時代末～平安時代初期とみられる立鼓柄太刀が発見されている。また、平成10年度には国道152号線の改良工事に伴い発掘調査が実施され、土坑16基・埋甕炉1基の他、縄文・中世の遺物が発見されている。

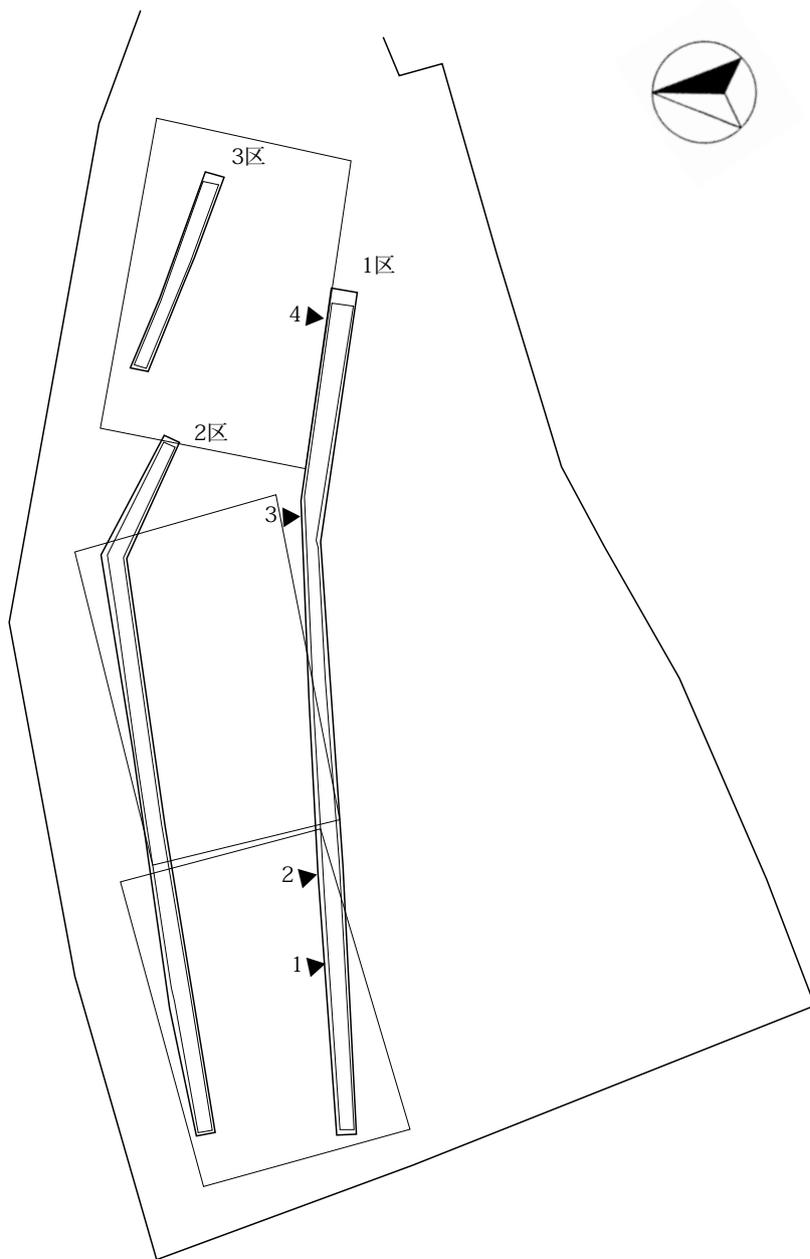
2 調査の概要

今回通知された箇所は、総面積2,637㎡の土地に3棟の集合住宅を建設するものである。

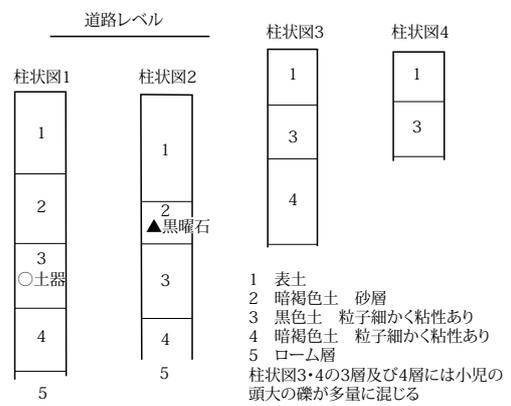
建物を建設する箇所を中心に重機により3本のトレンチを設定して実施した。調査の結果、遺構の検出はなかったが、1区トレンチの2層から黒曜石が、3層から時期不明の土器片が出土した。



第11図 土佐屋敷遺跡調査地点図 (1/6,000)



第12図 土佐屋敷遺跡調査位置図 (1/500)



第13図 土佐屋敷遺跡調査土層図 (1/60)



図版21 調査風景1(西から)



図版22 調査風景2(西から)

5 トクアミ遺跡

遺跡番号 317-4

所在地 茅野市豊平4940-1

調査原因 大学校舎増築工事

調査期間 平成30年8月28日～30日

調査面積 142㎡

遺構 なし

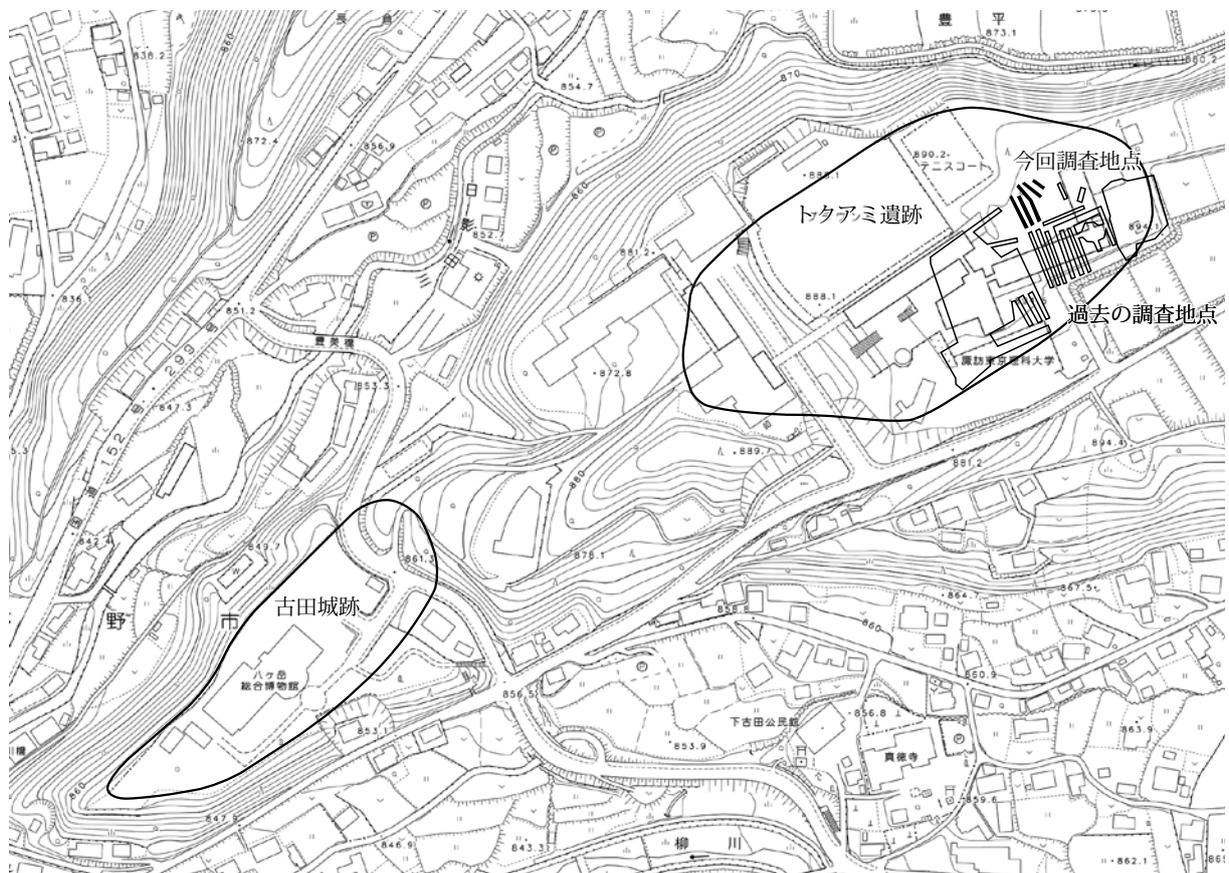
遺物 なし

1 遺跡の概要

トクアミ遺跡は東京理科大学諏訪短期大学の4年制の移行に際し、造成工事が行われることになったため、平成9年度に分布調査を行い、遺物が採集されたため遺跡登録された。

敷地内の試掘調査を行い、遺構の検出を見たため調査を行い、平安時代の竪穴住居址をはじめ、中世の掘立柱建物址、方形竪穴、溝址などを検出している。

平成19年度には研究棟および機械室の建築範囲に4本の試掘坑を設定し、遺構検出面となる明黄褐色土層（ローム層）まで掘り下げることにした。その面までの深さは現況地盤以下約50cmであった。精査を進めると、調査区北側の東壁に、抜根と異なる黒色土の落ち込みが検出され、遺構か否かを判断するために掘り下げを行った。人工の落ち込みであることは確実で、壁の状態からみて落し穴であると判断した。覆土から縄文土器と思われる細片が得られたため、縄文時代の落し穴である可能性がある。



第14図 トクアミ遺跡調査地点図 (1/5,000)

2 調査の概要

今回通知された箇所は、公立諏訪東京理科大学の敷地内約1,500㎡の土地に9号棟を建設するものである。ここはトクアミ遺跡（遺跡番号317）の範囲内で、これまで大学建築に際して発掘調査が行われてきたほか、校舎を増築するたびに試掘調査や発掘調査が繰り返されてきた。

計画が示されたのは昨年度で、2月26日に現地にて理科大側と打ち合わせ協議を行った。そこで、この建設予定地が遺跡に該当することから、まず試掘調査を行い、その結果に基づいて再度協議を行うこととなった。試掘調査については、授業のない夏休み期間中に行うこととし、さらに大学での行事のない盆過ぎに行うことで調整を行った。

今回の9号棟建築予定地は、7号棟の北側にあり、周辺より一段高く築山のようになっており、現在はサクラやドウダンツツジなどが植栽された緑地となっている。植栽整備前もシラカバやキハダ、カラマツなどがあったようである。

試掘調査は、重機を用いてトレンチをあけていく方法をとったが、樹木や伐採した切株などをよけながらの掘削となった。

調査経過

8月28日（火）晴れ一時雨

重機によるトレンチ掘削。作業は半日で終了する。

8月29日（水）晴れ一時雨

作業員を動員し、トレンチの清掃を行う。山林内であるため、根の切除に苦勞する。2時ころまでに清掃作業を終了し、写真撮影と平面図作成。土層断面観察を行う。作業は一時雨に降られる中、5時過ぎまでかかって終了する。

8月30日（木）晴れ

重機による埋め戻し作業。

3 調査トレンチの概要

建物を建設する箇所を中心に重機により5本のトレンチを設定して実施した。調査の結果、遺構の検出や遺物の出土はなかったが、4区トレンチの南側で何らかの埋設の痕跡があった。

1号トレンチ

南側3mほどからは、ペットボトルや農業用マルチなどが出土し、7号棟建設時の盛土と考えられる。ローム面までは70cmあり、上層40cmは表土層、下層は暗褐色土である。

2号トレンチ

1号トレンチと同じく、南側3mほどは造成による盛土である。ローム面までは55cmあり、上層が表土、下層が暗褐色土である。

3号トレンチ

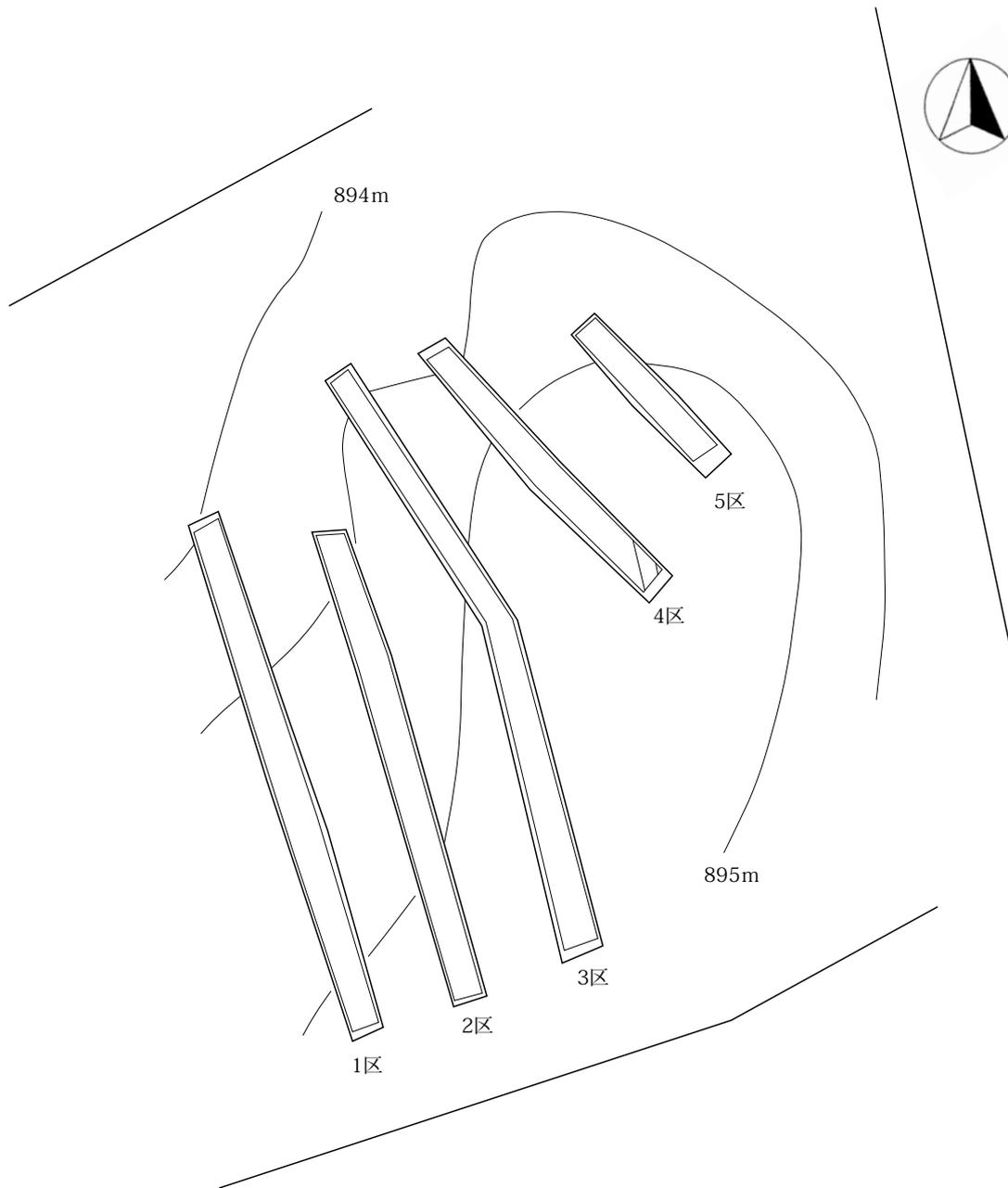
ローム面までは60cmあり、上部18cmにロームによる盛土がある。中層が表土層で、40cm、下層が暗褐色土である。

4号トレンチ

ローム面までは60cmあり、上層35cmが盛土と表土、下層が暗褐色土である。南側で水道管などを埋めたかと思われる砂利の入る溝を確認したが、掘り下げは行わなかった。

5号トレンチ

ローム面までは56cmある。上層に腐葉土が16cmあり、その下に15cmのロームによる埋土がある。下層が暗褐色土で、25cmを測る。



第15図 トクアミ遺跡調査位置図 (1/300)



図版23 遺跡全景を大学7号棟の屋上から望む（南から）



図版24 1号トレンチ（南から）



図版25 2号トレンチ（南から）



図版26 3号トレンチ（南から）



図版27 4号トレンチ（南から）



図版28 5号トレンチ（南から）

第3章 本調査および工事立会

1 神ノ木遺跡

遺跡番号 53-4

所在地 茅野市北山8894-1の一部

調査原因 倉庫建築

調査期間 平成30年6月4日

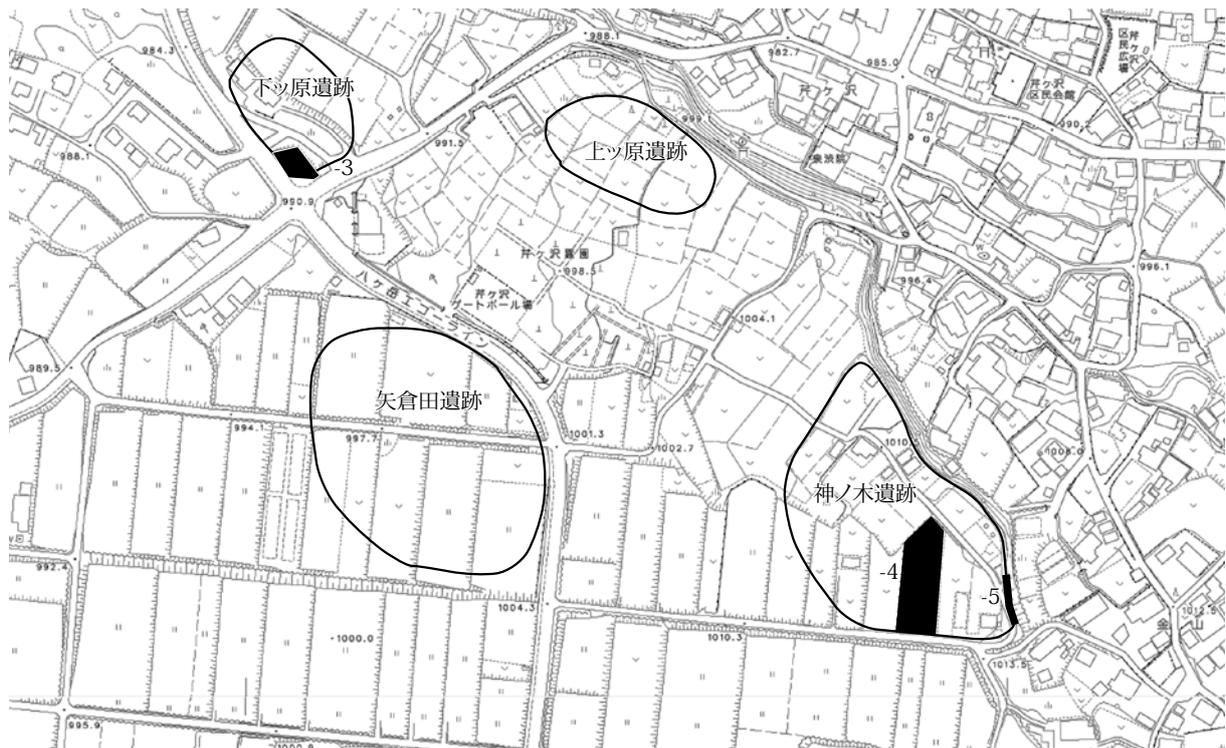
対象面積 84㎡

遺構 なし

遺物 なし

1 遺跡の概要

神ノ木遺跡は、縄文時代前期の神ノ木式土器の標式遺跡である。県営ほ場整備事業に伴う試掘調査が平成6年度に実施され、縄文時代前期前半を主体とする集落址が確認されると共に、遺跡の範囲約15,000㎡が特定されている。



第16図 神ノ木遺跡・下ッ原遺跡調査地点図 (1/5,000)

2 調査の概要

申請された事業は倉庫建設工事で、建築面積は84.59㎡である。計画地は、昭和27年に発掘調査が実施され、後に神ノ木式土器の標識資料となる土器が出土した住居址と比較的近い場所に位置し、遺構・遺物の分布する可能性は高いと考えられた。平成8年に実施した試掘調査では、縄文前期前半の遺構・遺物が検出されている。同時に長芋栽培の深耕による攪乱も多数あり、土層の遺存状態は良好といえないことも確認されている。

本工事の基礎工事はベタ基礎で、床面部分の掘削深度が約30cm、外周の布基礎が西側で幅約60cmで掘削深度が

約60cm、東側で50cmである。遺跡への影響については、試掘調査後の造成で、現状より1.4mほど盛土が行われている中での工事となり遺跡への影響はないと考えられる。以上から、本工事に伴う遺跡の保護措置は工事立会とした。

工事立会の結果、基礎工事は盛土の範囲内であり、遺物包含層や遺構に影響のないことが確認できた。

遺跡番号 53-5
所在地 茅野市北山8912-3
調査原因 法面改良工事
調査期間 平成30年10月18日
調査面積 200㎡
遺 構 なし
遺 物 なし

3 調査の概要

本工事は遺跡北東端の北斜面の法面工事で、斜面下の用水と法面の改修を行うものである。このため、斜面上の遺跡には直接影響を与えるものではないと考えられる。以上から、本工事に伴う遺跡の保護措置は工事立会とした。

工事立会の結果、遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。



図版29 調査風景1(東から)



図版30 調査風景2(北から)

2 下ッ原遺跡

遺跡番号 55-3
所在地 茅野市北山字姥ヶ懐6915-17
調査原因 個人住宅・店舗兼用
調査期間 平成30年5月24日
対象面積 378㎡
遺 構 なし
遺 物 なし

1 遺跡の概要

下ッ原遺跡は芹ヶ沢の南西側高台にあり、神ノ木遺跡の西に位置する。表面採集により縄文時代中期後半の土器片と石鏃・打製石斧・石匙・石錐が採集されている。平成18・19年度に広域営農団地農道整備事業に伴う発掘調査が行われたが、大きく盛土により造成されており、遺構の検出に至っていない。

2 調査の概要

今回通知された工事は、住宅兼店舗の新築工事に伴うものである。ここは、かつて水田であったところに盛土し、畑地となっていたところで、工事図面を見てもその盛土の深さを超えることがない。そのため保護措置は工事立会いとした。

工事立会の結果も、盛土の深さを超えることはなく、遺構の検出や遺物の出土もなかった。

3 中原遺跡

遺跡番号 68-4

所在地 茅野市豊平640-3

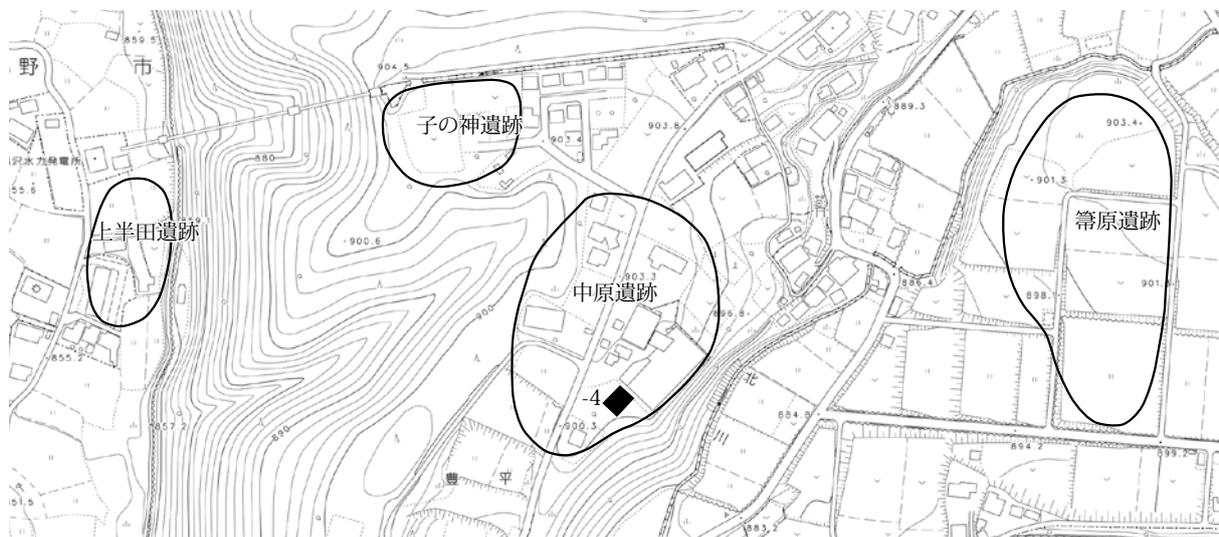
調査原因 倉庫建築

調査期間 平成30年4月12日～13日

調査面積 18㎡

遺構 縄文住居址 1

遺物 縄文土器、磨石



第17図 中原遺跡調査地点図 (1/5,000)

1 遺跡の概要

中原遺跡は豊平地区の西端に位置し、起伏に富んだ丘陵の一台地状平坦面に立地する。西側は上川の浸食により急崖を呈している。台地の幅は約100mを測り、平坦面から南側斜面が遺跡として登録されている。台地の東側の谷間に下菅沢地区があり、台地裾の所々から清水が湧き出している。

当遺跡は発掘調査歴の古い縄文時代の集落遺跡である。調査はこれまでに4回行われている。最初の調査は、昭和26年の福沢区公民館の一事業で、宮坂英弼氏の指導を受けて行われた。前年に発見された石囲炉を含め、縄文時代の住居址3軒（中期後半2軒、後期？1軒）が調査された。2回目は昭和55年である。工場建設に伴い430㎡が調査され、縄文時代中期後半の住居址4軒と同時期と考えられる土坑44基が検出された。住居址は土坑

群の南側に位置し、昭和26年検出の住居址は土坑群の東側に位置することが確認された。土坑の大半は長軸1.4 m、短軸1 mほどの不整楕円形を呈し、硬玉製垂飾1点、琥珀製垂飾2点のほか、中期後半の一括土器が出土したものがある。土坑の規模・形態と出土遺物からみて、大半は墓坑と考えられている。これまでに検出された住居址7軒と土坑群の位置関係から、中期後半段階に「環状集落」が形成されていた可能性が指摘されている。

2 調査の概要

今回通知された工事は、工場隣接地に倉庫を建設するものである。ここは、遺跡の南西端で南向き斜面となっている。

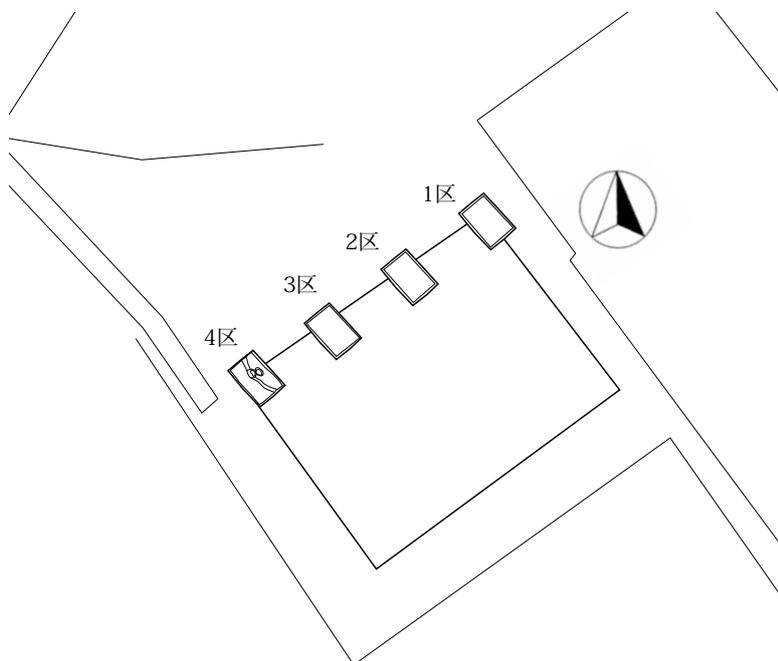
基礎工事は1.8m×2 mの区画で10ヶ所設けるが、南側は傾斜により盛土となり、掘削が行われるのは北側の4箇所だけである。掘削面積が狭いことから、遺跡の保護措置は工事立会とし、遺構が検出された際には再度協議を行い、発掘調査に切り替えることとした。

工事立会の結果、東側の1区から3区までには遺構が検出されず、遺物の出土もなかったが、西側の4区で地表面から20cm掘り下げたところで住居址の掘り込みを検出した。そこで、この調査区を発掘調査することとし、作業員を動員して掘り下げと測量を行った。周辺については、盛り土となるため、調査範囲の拡張は行っていない。

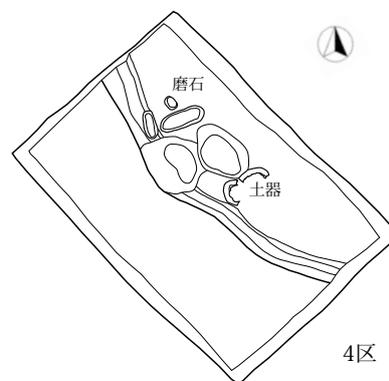
3 住居址

検出したのは住居址の南西隅にあたる。平面規模は不明であるが、3区でこの住居址が確認できないことから、径は5 mに満たないものと考えられる。北東側は壁の深さが40cmほどあるが、南東側は床面と外側がほぼ同レベルで、深さ8 cmの周溝によって遺構の範囲が分かる程度である。壁面近くに柱穴があり、外周に床が貼ってあった。柱穴の南に伏襲と思われる口縁部が出土している。また、柱穴の北側には磨石のほか、石囲い炉に用いたかと思われる自然礫が2個出土している。壁に接する穴は、深さが10cmほどと浅い。

本住居址の時期は、出土した土器から、中期後半の曾利2式になると考えられる。



第18図 中原遺跡調査位置図 (1/400)



第19図 検出した遺構 (1/60)



図版31 出土土器 (口径22cm)



図版32 住居址（西から）



図版33 住居址（北から）

4 日向上遺跡

遺跡番号 74-10

所在地 茅野市豊平5589-4

調査原因 個人住宅

調査期間 平成31年2月19日

対象面積 284㎡

遺構 なし

遺物 なし

1 遺跡の概要

日向上遺跡は、標高920メートルの台地上に位置し、『諏訪史』第1巻にも記録されるなど古くから知られた遺跡である。戦前に宮坂英弑氏が注目し、初めて竪穴住居址を完掘した遺跡としても知られる。現在の集落とほぼ範囲を同じくしているため、大規模な発掘は行われていないが、住宅の建設など何箇所か工事に際し立会を行い、縄文時代の住居址や中・近世の掘建柱建物址などが検出されている。

2 調査の概要

今回の届出は個人住宅の建て替え工事に伴うもので、日向上遺跡の中央部に近い。基礎工事は、床面のベタ基礎部が掘削深度約25cm、外壁部の布基礎の掘削深度が約60～80cm・幅約60cmである。ベタ基礎部は掘削が浅く、布基礎部分は狭量であることから、今回の遺跡の保護措置は、工事立会いとした。

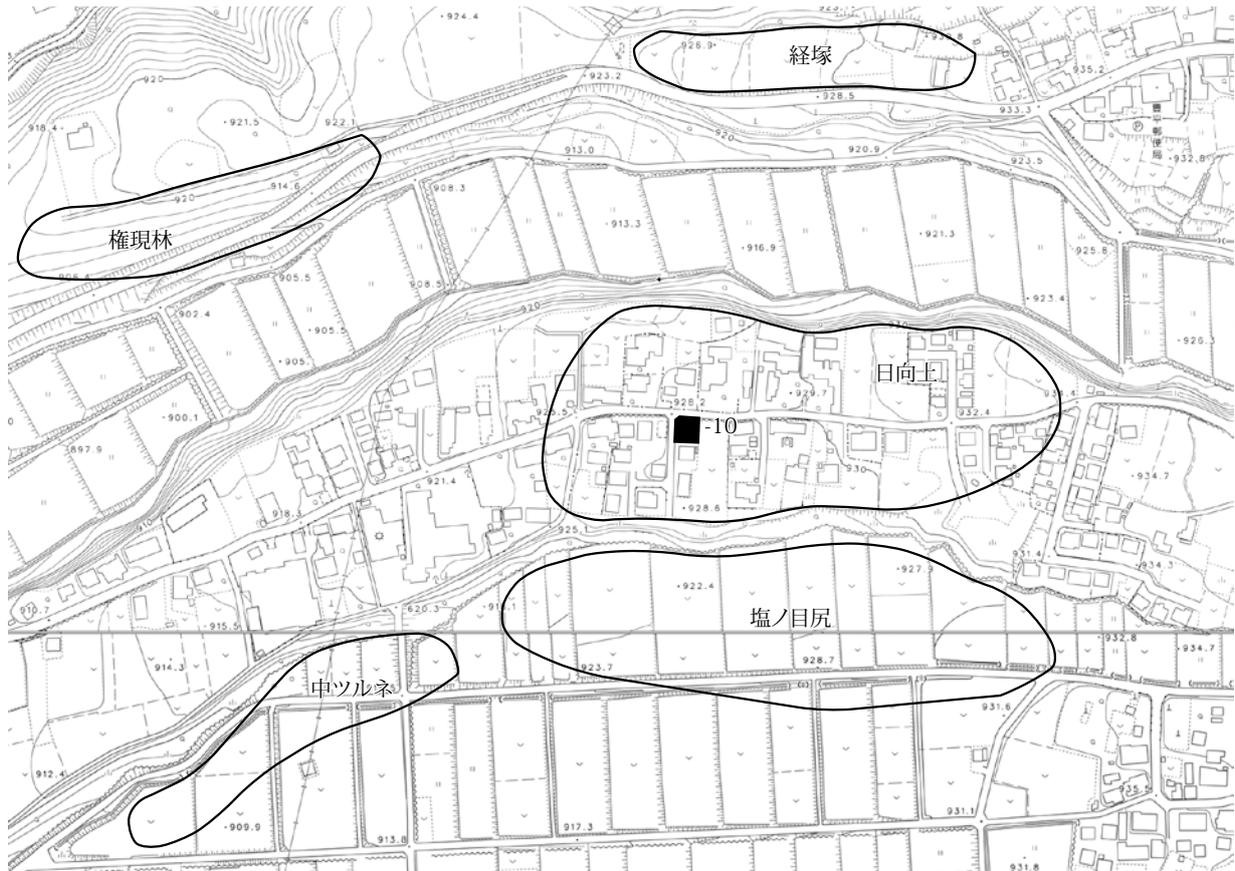
工事立会の結果、旧住宅の基礎の撤去と造成により、遺構検出面を確認できなかった。



図版34 調査風景1（西から）



図版35 調査風景2（南から）



第20図 日向土遺跡調査地点図 (1/5,000)

5 一本榎遺跡

遺跡番号 107-7

所在地 茅野市塚原1丁目4216-1、2、4217-3

調査原因 個人住宅

調査期間 平成30年12月25日

対象面積 318㎡

遺構 なし

遺物 なし

1 遺跡の概要

一本榎遺跡は縄文時代中期から古墳時代、平安時代から中世まで継続した集落遺跡で、古墳時代には「永明寺山腹古墳群」が築造されている。過去、複数回の発掘調査が行われている。昭和48年市道改良工事に伴う発掘調査では、縄文時代中期住居址と弥生時代後期住居址が各6軒、後期古墳が1基検出されている。

2 調査の概要

今回届出された工事は個人住宅建築工事に伴うものである。基礎はベタ基礎で20cmの掘削を行い、外周は深さ61cm、幅30cmの掘削となる。今回の計画深度では外周の基礎部分が遺構に達する可能性がある。そこで、保護措置は工事立会いとした。

工事立会の結果、基礎による掘削が宅地造成の際の盛り土内で収まっており、遺構検出面に至らないことを確認した。また、遺物の出土もなかった。



第21図 一本榎遺跡調査地点図 (1/5,000)



図版36 調査風景1 (北から)



図版37 調査風景2 (西から)

6 家下遺跡

遺跡番号 110-66

所在地 茅野市ちの2587番

調査原因 個人住宅

調査期間 平成30年4月26日

対象面積 554㎡

遺構 なし

遺物 なし

1 遺跡の概要

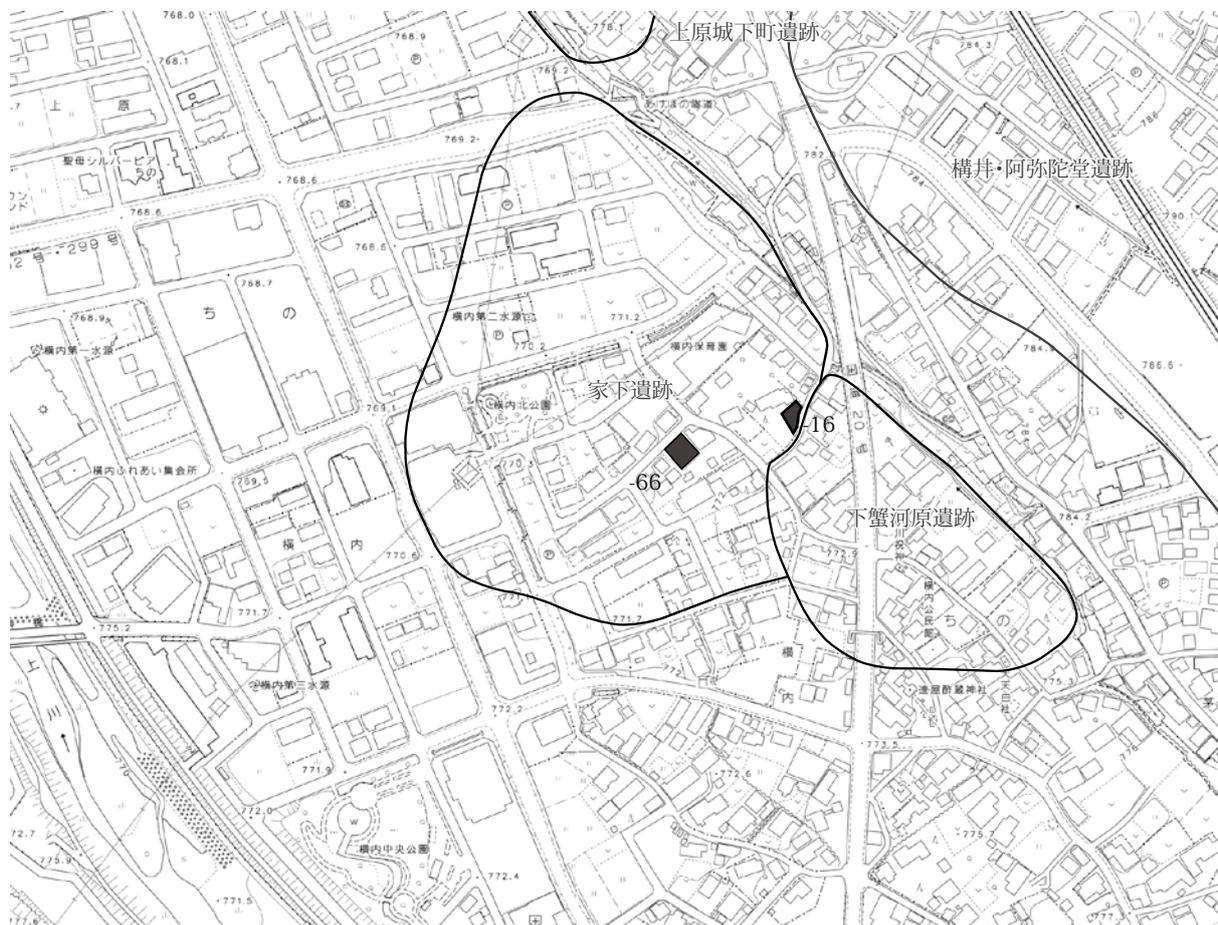
家下遺跡は茅野駅の西に走る断層崖下の沖積低地に立地する。時代的には縄文時代から近世まで継続する集落遺跡で、現時点において時代の中心は弥生時代から古墳時代である。平成6年から3ヶ年かけて行われた土地区画整理事業に伴う発掘調査を緒とし、集合住宅・個人住宅建築工事などに伴う大小の発掘調査により、遺跡の実態が徐々に明らかにされている。平成25年度の保育園建替えに伴う発掘調査では弥生中期から平安前期までの14軒の住居址が見つかった。

2 調査の概要

今回届出された工事は個人住宅建築工事に伴うものである。基礎部分の掘削は深度43cmである。今回の建築は、建て替えによるものであり、旧住宅によって遺跡が荒らされていると考えられる。そこで、解体工事と基礎

工事の際に工事立会を行い遺跡の状況を把握した。

この周辺は、八ヶ岳山麓の様な火山灰土は見られず、遺構検出面が砂地である。旧住宅の基礎は意外と浅く、遺構の検出が期待されたが、確認できなかった。また、遺物の出土もなかった。



第22図 家下遺跡・下蟹河原遺跡調査地点図 (1/5,000)



図版38 調査風景1 (北から)



図版39 調査風景2 (北から)

7 下蟹河原遺跡

遺跡番号 112-16
所在地 茅野市ちの2574番7
調査原因 自動車車庫
調査期間 平成31年2月25日
対象面積 292㎡
遺構 なし
遺物 なし

1 遺跡の概要

下蟹河原遺跡はJR茅野駅の西側に位置し、上川沖積段丘面の断層崖下に形成された微高地一帯に立地する。昭和6年に出土した古墳時代初頭の土器群で著名な遺跡であるが、立地からみて弥生時代から中世まで継続する集落遺跡であると推測される。北西に隣接する家下遺跡とは、以前は別の遺跡として認識されていたが、双方の遺跡が試掘調査などで範囲を拡大していく中で、境界を接してしまっている。本来同じ遺跡としてとらえるのが妥当であるが、それぞれ歴史的にも知られている遺跡であるためそのままとしている。

今回提出された届け出は、現在の区分で言えば家下遺跡であるが、境界に接しているためそのまま受理している。平成25年に同一敷地に建築された個人住宅の建築に際しては、家下遺跡として届け出が提出されている。

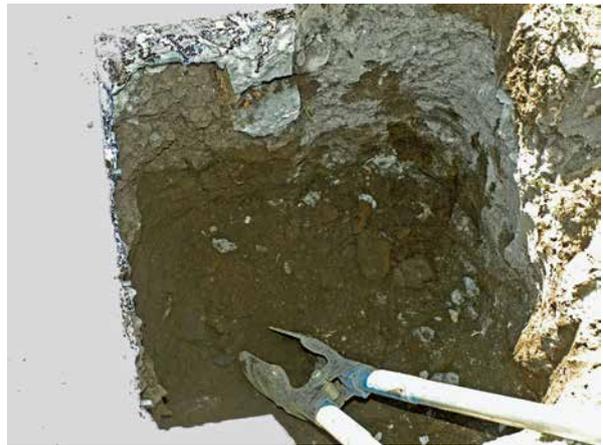
2 調査の概要

今回届出された工事は住宅敷地内に自動車車庫を建築するものである。基礎部分は掘削深度約50cm、幅約50cm四方で、6本の基礎を掘るもので、内部は掘削を行わない。掘削範囲が狭いため、今回の保護措置は工事立会とした。

工事立会の結果、敷地内は車庫のコンクリートを打設する際に荒されており、遺構の検出はなく、遺物の出土もなかった。



図版40 調査風景1(東から)



図版41 調査風景2(部分)

8 小飼通遺跡

遺跡番号 134-3
所在地 茅野市宮川3703-1、3702-1、3719-3、3705-4、3705-6
調査原因 個人住宅
調査期間 平成30年12月8日
対象面積 467㎡
遺構 なし
遺物 なし

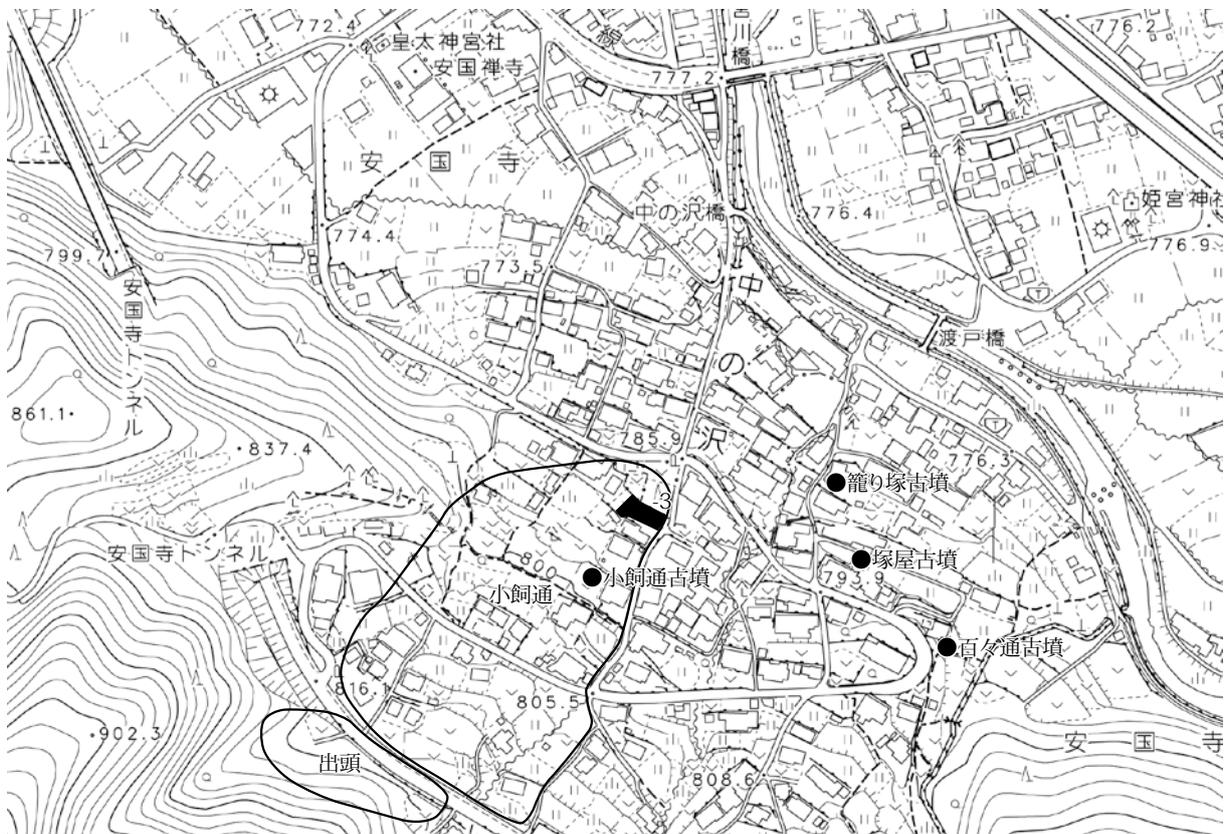
1 遺跡の概要

小飼通遺跡はその地形の良さや杖突峠の麓という交通の要所であることから、近くには古墳が数多く造られ、中世の時代には安国寺が置かれるなど繁栄した場所である。「諏訪史」第一巻には遺物発見地として本遺跡が記されている。また、縄文時代の遺物も数多く出土しており、土偶や石剣、耳飾りが出土したという記録も残っている。しかし、実際に調査が行われたことはなく、その実態は判然としていない。

2 調査の概要

今回届出された工事は個人住宅建築工事に伴うものである。基礎工事は建物外周を幅約40～90cm、深さ約60cm掘削する予定である。今回の工事は畑地に新しく住宅を建築するものであるが、掘削にかかる部分は狭窄なこともあるので保護措置は工事立会いとした。

工事立会の結果、高い石積みにより造成されており、傾斜の高い場所においても盛土の範囲内であり、遺跡に与える影響はないものと判断した。



第23図 小飼通遺跡調査地点図 (1/5,000)



図版42 調査風景1(東から)



図版43 調査風景2(部分)

9 御社宮司遺跡

遺跡番号 143-28

所在地 茅野市宮川5810-16

調査原因 事務所建築

調査期間 平成30年8月22・23日

対象面積 232㎡

遺構 なし

遺物 なし

1 遺跡の概要

御社宮司遺跡は中央自動車道建設に伴う発掘調査によって、縄文晩期の遺構・遺物が発見され、同時期の沖積低地に築かれた拠点の集落と位置づけられている。その後の大小の調査によって、その実態が徐々に解明されている。近年では、国道20号坂室バイパス建設に伴う調査が2004年から2007年にかけて長野県埋蔵文化財センターによって実施され、縄文・平安の遺物、中世の集落跡、近世の水田跡などが発掘されている。

2 調査の概要

今回届出された工事は、事務所の建築工事に伴うもので、平成29年度に造成工事を行う際に擁壁部分の工事立会を行い、遺構の検出や遺物の出土のなかったところである。

工事は、現地表面から30cm盛土をしたのち幅50cm、深さ60cmの基礎を掘り下げるものである。掘削は現地表面から30cmほどで、表土内で収まると考えられるため、保護措置は工事立会いとした。

工事立会では、計画深度まで掘り下げるが、埋め戻しの痕跡が確認された。

遺跡番号 143-29

所在地 茅野市宮川5850-10

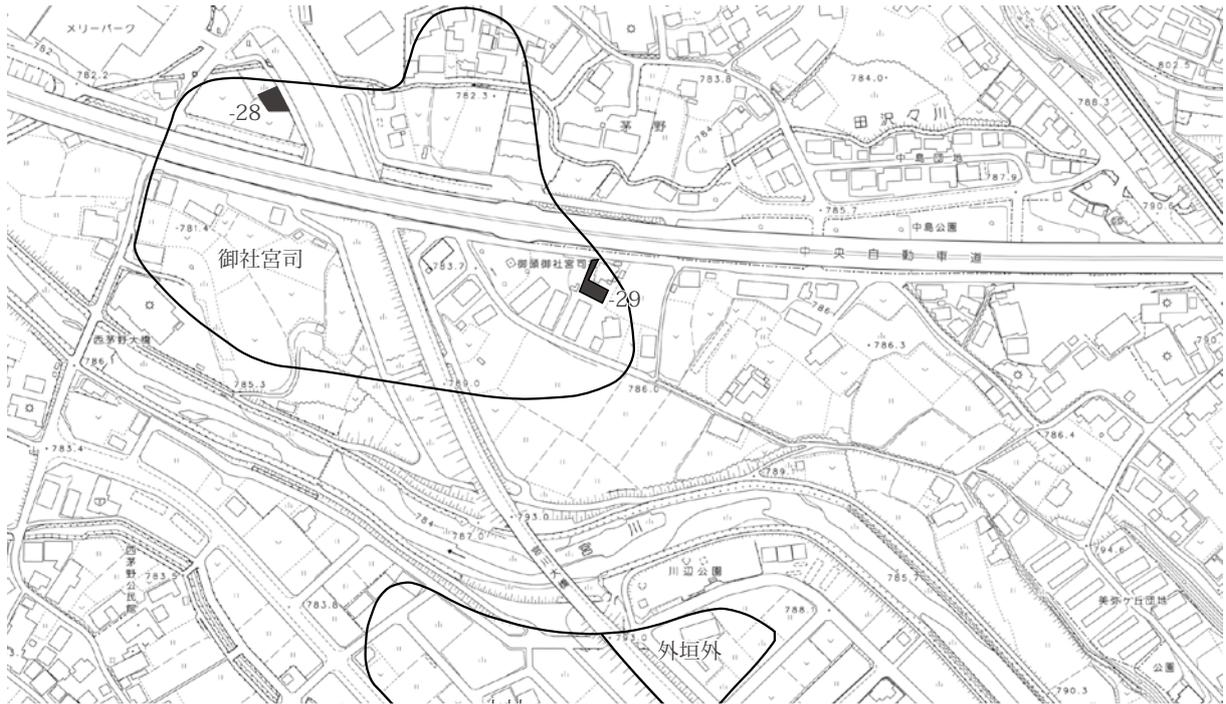
調査原因 個人住宅

調査期間 平成30年11月27日

対象面積 274㎡

遺構 なし

遺物 なし



第24図 御社宮司遺跡調査地点図 (1/5,000)

2 調査の概要

今回届出された工事は、個人住宅の建築工事に伴うもので、全面をベタ基礎、外周を現地表面から幅50cm、深さ60cmの基礎を掘り下げるものである。遺跡の東端にあたり、平成16年に隣接地の調査を行っているが、地表下70cm掘り下げて遺構確認面に達していなかった。このことから、保護措置は工事立会とした。

工事立会の結果、計画深度まで掘り下げるが、遺構確認面に達しなかった。



図版44 調査風景1(東から)



図版45 調査風景2(東から)

10 林の峯遺跡

遺跡番号 147-4

所在地 茅野市宮川5010-103・104

調査原因 防災倉庫建築

調査期間 平成30年10月2日

対象面積 374㎡

遺構 なし

遺物 なし

1 遺跡の概要

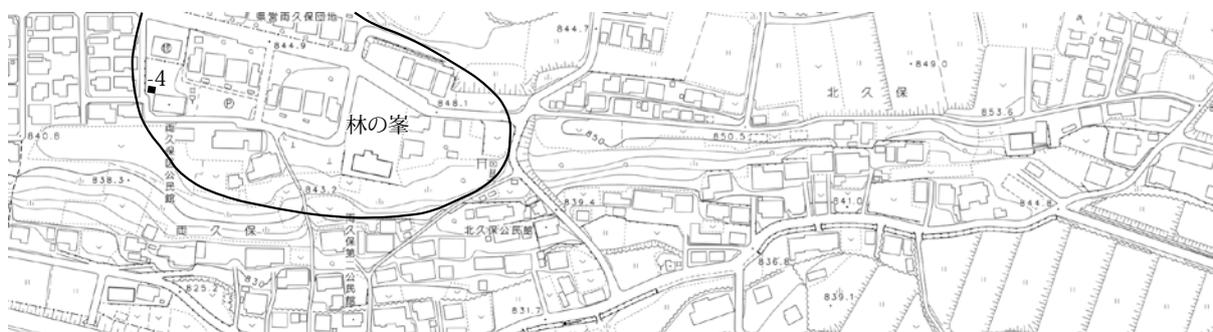
林の峯遺跡は「県営ひばりヶ丘団地」建替に伴い、平成7・8・11年に発掘調査が行われ、旧石器時代後期と推定される黒曜石石核4点が同一個所から出土し注目された他、縄文時代中期の住居址4軒をはじめとする遺構・遺物が発見されている。その他、弥生土器・土師器の出土記録もある。

2 調査の概要

今回計画された事業は公民館に隣接する広場に防災倉庫を建設するものである。布基礎で幅約45cm、深さ約35cm前後であり、広場にする際平地にするため造成されている可能性もある。そこで今回の保護措置は基礎掘削時の立会調査とした。

工事立会の結果、広場の造成により、盛り土の下には遺物包含層、ローム漸移層は確認できず、直ちにハードローム層となっており、かつて遺構があったとしてもすでに削平されているのではないかと考えられた。

この工事立会による遺構の検出や遺物の出土はなかった。



第25図 林の峯遺跡調査地点図 (1/5,000)



図版46 調査風景1 (北から)



図版47 調査風景2 (部分)

11 上原城下町遺跡

遺跡番号 224-242
所在地 茅野市ちの770-1、770-2、770-4
調査原因 個人住宅建築
調査期間 平成31年3月19日～22日
調査面積 42㎡
遺構 古墳時代住居址 1
遺物 古墳時代土師器・須恵器

1 遺跡の概要

霧ヶ峰山塊の南縁を形成する永明寺山（1,156m）の南西一帯は、かつて城下町が形成されていたことから広く遺跡として認識されている。永明寺山裾より南にある上川沖積地に向かって広がる平坦な段丘面上に存在し、J R中央線と国道20号線に沿って長く伸びる。永明寺山山腹には多くの古墳が確認されており、それに応じるように本遺跡からも多くの住居址がみついている。近年では広範囲にわたる大小様々な発掘調査の継続により、その成果が集積されつつある。中世に築城された上原城とその城下町が遺跡名の由来であるが、現在ではそれ以上に弥生～古代、そして中世と長期にわたる人の生活の痕が次々と見ついている。また、そうした調査の中には数は少ないが縄文土器や石器、黒曜石といった遺物も出土している。

平成4年からの文化財保護法に基づく届け出は、245件に及び、平成30年度だけでも10件の届け出があった。その多くは個人住宅の建築に伴うもので、基礎工事の際に立会いを行っている。

工事立会では、掘削面が遺構検出面に達しないものもあり、遺構を確認しても掘削面がそれ以上深くならない場合は、遺構の掘り下げは行わず、平面プランの測量を実施して終了となるものもある。

今年度発掘調査に至ったものは、1件で、他は基礎工事の際の工事立会で、遺構検出面まで至っていないことを確認し、終了したものである。

2 調査の概要

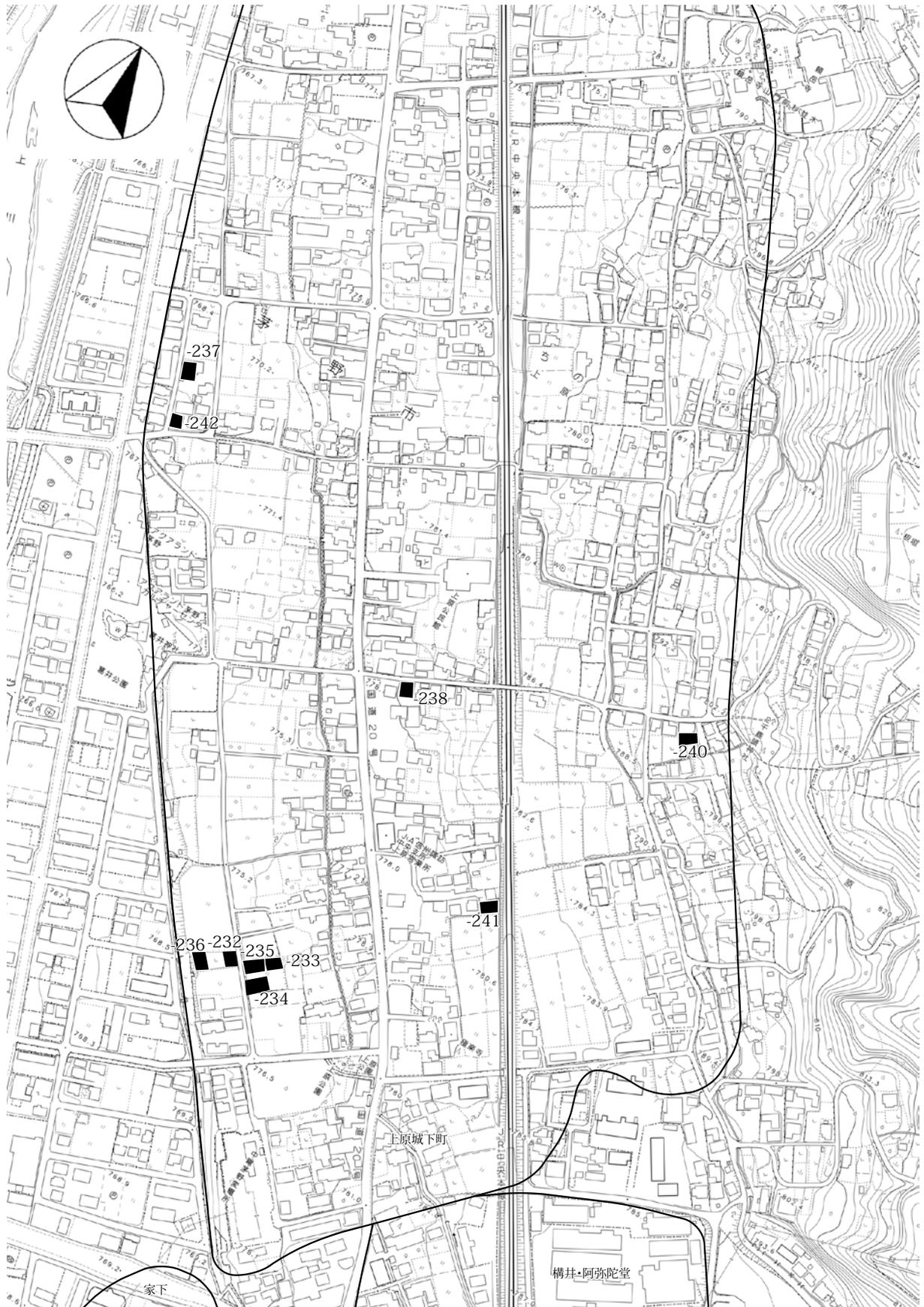
今回の調査地は、茅野駅前から続く茅野断層の北端で、段差が解消され傾斜が緩くなっている個所にある。

かつては水田や畑として利用されてきたが、住宅の集中するところである。今回はその内の1件で、現地表面をベタ基礎により約80cm掘り下げる計画であったため、事前に発掘調査を行うこととした。

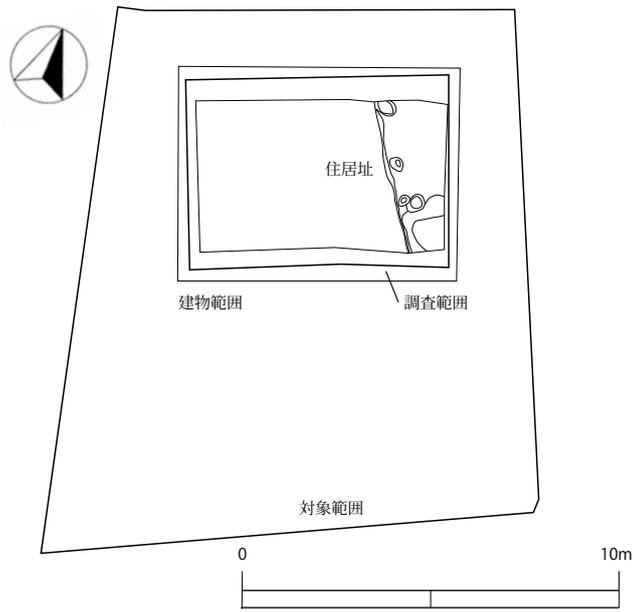
調査は、地表より重機により遺構の検出面まで掘り下げを行うこととした。掘り下げた結果、ほとんどは礫の多く混じる黒土の盛土となっていた。水田を時期によって造成し直しているようで、調査区の北側と東側の断面では2枚の水田の床土を確認できる。

80cmほど掘り下げたところで、東側に二次堆積した薄いローム層があり、そこで遺構が検出できた。その下や西側は流されてきた礫混じりの土層となる。

検出した遺構は、掘り下げ前は出土した古墳時代の土師器や須恵器片から、直線的に延びる大きな方形の住居址になると思われたが、掘り下げるといくつかの後世の攪乱もあり、住居の規模は明らかでない。深さも僅か数cmで、遺物の出土も少なかったが、平安時代の須恵器大形甕の把手が出土している。



第26図 平成30年度 上原城下町遺跡調査地点 (1/5,000)



第27図 調査位置図 (1/200)



図版48 調査風景 (西から)



図版49 遺構検出応対 (北から)



図版50 遺物出土状態 (東から)



図版51 遺構完掘状態 (北から)



図版52 須恵器把手（約1/2）

遺跡番号 224-237

所在地 茅野市ちの317番7

調査原因 個人住宅建築

調査期間 平成30年5月28日

対象面積 212㎡

遺構遺物 基礎工事は盛土および表土層内で、遺構は検出されなかった。また、遺物の出土もなかった。



図版53 調査風景1（北から）



図版54 調査風景2（西から）

遺跡番号 224-240

所在地 茅野市ちの1870-1・5

調査原因 個人住宅建築

調査期間 平成30年12月6・7日

対象面積 415㎡

遺構遺物 基礎工事は、表層改良を行うのもで、表土層と薬剤を攪拌するものである。遺構確認面で作業を中断してもらい、観察したが、遺構は検出されなかった。また、遺物の出土もなかった。



図版55 調査風景1(北から)



図版56 調査風景2(北から)

遺跡番号 224-241

所在地 茅野市ちの1090番7

調査原因 個人住宅建築

調査期間 平成31年3月8日

調査面積 195㎡

遺構遺物 基礎工事は布基礎で、表土層を遺構確認面まで掘り下げてもらい観察したが、遺構は検出されなかった。また、遺物の出土もなかった。



図版57 調査風景1(西から)



図版58 調査風景2

報告書抄録

ふりがな	しないいせきじゅうさん					
書名	市内遺跡13					
副書名	平成30年度 埋蔵文化財発掘調査報告書					
巻次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	小林深志・鶴飼幸雄					
編集機関	茅野市教育委員会					
所在地	〒391-8501 長野県茅野市塚原二丁目6番地1号 TEL0266-72-2101					
発行年月日	西暦2020年1月31日					
ふりがな 遺跡名	所在地	市町村コード	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	発見遺構
		遺跡番号				発見遺物
あらいした 新井下	茅野市湖東5657番1、 5659番4	20214	平成30年4月2日	123	宅地造成	なし
		59-18				なし
まえみや 前宮	茅野市宮川2044、 2041、2042番地	20214	平成30年12月4日～ 6日	108	擁壁工事および 交流センター建設	古墳時代住居址1、 土坑3、溝址2
		129-25				土師器、須恵器、 カワラケ、陶磁器
こどうみ 小堂見	茅野市玉川3075-2、 3076-口、3078、 3079、3085	20214	平成30年4月2日～ 3日	134	宅地造成	なし
		160-13				なし
こどうみ 小堂見	茅野市玉川3080-1	20214	平成30年10月16日・ 11月26日	180	駐車場造成・ ガレージ建設	なし
		160-14				なし
こどうみ 小堂見	茅野市玉川3085-1	20214	平成30年10月15日	70	個人住宅	なし
		160-15				なし
こどうみ 小堂見	茅野市玉川3085内	20214	平成30年10月31日	37	個人住宅	なし
		160-16				なし
こどうみ 小堂見	茅野市玉川3079-2	20214	平成30年10月31日	37	個人住宅	なし
		160-17				なし
こどうみ 小堂見	茅野市玉川3076-1、 3075-2	20214	平成31年1月10日	26	個人住宅	なし
		160-18				なし
とさやしき 土佐屋敷	茅野市本町東5036- 1、5312-1、5313- 1・6・8	20214	平成30年11月19日 ～20日	32	集合住宅建築工事	なし
		218-2				時期不明土器、黒曜石
とくあみ トクアミ	茅野市豊平4940-1	20214	平成30年8月28日～ 30日	142	大学校舎増築工事	なし
		317-4				なし
かみのき 神ノ木	茅野市北山字矢倉 田8894-1の一部	20214	平成30年6月4日	84	倉庫建築	なし
		53-4				なし
かみのき 神ノ木	茅野市北山8912-3	20214	平成30年6月4日	200	法面改良工事	なし
		53-5				なし
しもっぱら 下ッ原	茅野市北山6915-17	20214	平成30年6月4日	378	法面改良工事	なし
		55-3				なし
なかはら 中原	茅野市豊平640-3	20214	平成30年4月12日～ 13日	18	倉庫増築	縄文住居址1
		68-4				縄文土器、磨石
ひなたうえ 日向上	茅野市豊平5589-4	20214	平成31年2月19日	284	個人住宅	なし
		74-10				なし

いっぼんざわら 一本榎	茅野市塚原1丁目、 4216-1・2、4217-3	20214	平成30年12月25日	318	個人住宅	なし
		107-7				なし
いえした 家下	茅野市ちの2587番	20214	平成30年4月26日	554	個人住宅	なし
		110-66				なし
しもがにがわら 下蟹河原	茅野市ちの2574番7	20214	平成31年2月25日	292	自動車車庫	なし
		112-16				なし
こがいどおり 小飼通	茅野市宮川3703-1、 3702、3719-3、 3705-4・6	20214	平成30年12月18日	467	個人住宅	なし
		134-13				なし
みしゃぐうじ 御社宮司	茅野市宮川5810-16	20214	平成30年8月22日～ 23日	232	事務所建築	なし
		143-28				なし
みしゃぐうじ 御社宮司	茅野市宮川5850-10	20214	平成30年11月27日	274	個人住宅	なし
		143-29				なし
はやしのみね 林の峯	茅野市宮川5010-103 ・104	20214	平成30年10月2日	374	防災倉庫	なし
		147-4				なし
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの770-1、 770-2、770-4	20214	平成31年3月9日～ 22日	42	個人住宅	古墳～奈良時代住居址
		224-242				土師器、須恵器
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの317番7	20214	平成30年5月28日	212	個人住宅	なし
		224-237				なし
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの1870- 1、5	20214	平成30年12月6・7日	415	個人住宅	なし
		224-240				なし
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの1090番7	20214	平成31年3月8日	195	個人住宅	なし
		224-241				なし

市内遺跡 13

—平成30年度 埋蔵文化財発掘調査報告書—

令和2年2月6日 印刷

令和2年2月6日 発行

編集 茅野市教育委員会

発行 長野県茅野市塚原二丁目6番1号 (0266) 72-2101(代)

印刷 永明社印刷所

長野県茅野市塚原二丁目12番30号
